

2024 年度

立教セカンドステージ大学

講義内容(シラバス)

- (1) 開講科目一覧表
- (2) 必修科目講義内容(シラバス)
- (3) 選択科目講義内容(シラバス)

2024年度 開講科目一覧

	科目名	担当者	
必修基幹科目	オムニバス講義「学問の世界A」	本科ゼミ担当教員ほか	P.1
	オムニバス講義「学問の世界B」	理学部教員 &専攻科ゼミ担当教員ほか	P.2
	本科ゼミナール・修了論文	阿部 治	P.3
		李 旼珍	
		大野 久	
		栗田 和明	
		佐々木一也	
		野田 研一	
		野呂 芳明	
		堀 耕治	
		松山 伸一	
		和田 亨	
	専攻科ゼミナール・修了論文	上田 恵介	
		上田 信	
		黒木 龍三	
		渡辺 信二	

2024年度 開講科目一覧

	科目名	担当者	
第1群 E イ ジ ン グ 社 会 の 教 養 科 目 群	聖書と私	新井 美穂	P.4
	古典和歌を読むB	加藤 睦	P.5
	日本思想を名著でたどる	大熊 玄	P.6
	東洋思想からの問い	松本 秀士	P.7
	現代中国のメディア	森平 崇文	P.8
	自由な市民のための映画学入門	中村 秀之	P.9
	現代美術に親しむ	菊池 敏直	P.10
	歌が照らす人と社会	佐藤 壮広	P.11
	フランスの政治・社会・文化	橋本 晃	P.12
	グローバル社会とメディアの使命	三浦 元	P.13
	ジャーナリズムと法B	服部 孝章	P.14
	現代化学の成果と社会生活	宮部 寛志	P.15
	数理のマジカル・ミステリー・ツアー	浜田 忠久	P.16
	アメリカ研究入門	生井 英考	P.17
	Media Studies	黄 盛彬	P.18
第2群 コ ミ ュ ニ ティ デ ザ イ ン と ビ ジ ネ ス 科 目 群	ブラチナ社会におけるアクティブシニア論	松田 智生	P.19
	修了生が語るアクティブシニアの生き方	栗田 和明	P.20
	NPO法人の理論と事例研究	森 卓也	P.21
	セカンドステージの市民生活とNPO活動	渡辺 豊博	P.22
	ソーシャルビジネスの理論と実務	永沢 映	P.23
	サステナブルコミュニティの思想と実践【人数制限30名】	大和田順子	P.24
	環境保全とコミュニティ形成【人数制限24名】	永石 文明	P.25
	社会の持続可能性と環境問題	奇二 正彦	P.26
	持続可能な社会と地域づくり	阿部 治	P.27
	国際政治とグローバル市民社会の構想	竹中 千春	P.28
	現代社会と民法	野澤 正充	P.29
	金融論	鉢村 健	P.30
	信託機能を活用した社会貢献・財産管理	堂園 昇平	P.31
	シニアのための経営学	佐々木 宏	P.32
第3群 セ カ ン ド ス テ ー ジ 設 計 科 目 群	社会老年学	安藤 孝敏	P.33
	最後まで自分らしく	小谷みどり	P.34
	原風景とジオラマで自分史をつくる【人数制限10名】	野中 健一	P.35
	生きがいの生涯発達心理学	大野 久	P.36
	アドラー心理学を実践に活かす	箕口 雅博	P.37
	童謡を通して社会を視る	井手口彰典	P.38
	会計・税務の初歩から実践まで	坂本 雅士	P.39
	アートに基づいた学習活動のデザイン【人数制限10名】	石黒 広昭	P.40
	セカンドステージの住まいづくり	甲斐 徹郎	P.41
	現在（いま）を生きるための健生学	堀 エリカ	P.42
	食と健康の教養学	松山 伸一	P.43
	健康長寿とアンチエイジング	杉浦 克己	P.44
	セカンドステージを楽しむ詩心・気心	渡辺 信二	P.45
	セカンドステージとテクノロジー	村上 祐子	P.46

科目コード	0G070	科目名	オムニバス講義「学問の世界 A」			必修基幹科目	
開講日程・時限	春学期・木曜日・4 時限			授業方式	対面	単位数	2 単位
備 考	本科必修科目						
授 業 の 目 標 と 内 容	最初の 4 回はセカンドステージ大学(RSSC)における学びの基本事項の共有を目指す「RSSC 入門」で、充実した RSSC 生活を満喫するために踏まえておきたい知識や情報、注意点を取りあげます。続いて、本科ゼミナール担当者を中心とする各担当が輪番で、それぞれ専門とする分野の意義を語ります。今年度は「人間と自然」という統一テーマを掲げ、それぞれの担当教員がその専門からこのテーマにアプローチします。人間の個人的及び社会的事象は自然との関係によって成り立っています。このテーマを通してそれらの相互関係が認識されるとともに、多様な学問分野の特徴が垣間見えてくるでしょう。そうして知的視野が広がるのは、必修科目の魅力です。また、それは知性と教養に裏打ちされたセカンドステージをデザインしていく糧ともなるに違いありません。						
授 業 計 画	テーマ						担当者
	第 1 回	4/11	RSSC 入門Ⅰ―立教学院の歴史について―			栗田 和明 豊田 雅幸	
	第 2 回	4/18	RSSC 入門Ⅱ― RSSC での学びと活動―			河村 賢治	
	第 3 回	4/25	RSSC 入門Ⅲ―「自由な市民」としての心得―			河村賢治 人権・ハラスメン ト対策センター	
	第 4 回	5/9	RSSC 入門Ⅳ―修了論文とゼミ活動―			栗田 和明	
	第 5 回	5/16	文化人類学がもたらす相対的視点			栗田 和明	
	第 6 回	5/23	生きがい感と生きる意味			大野 久	
	第 7 回	5/30	哲学の原点としての自然の理法(ロゴス)			佐々木 一也	
	第 8 回	6/6	アメリカ風景画を考える			野田 研一	
	第 9 回	6/13	厳然と進む少子高齢社会を積極的に評価することはできるか？			野呂 芳明	
	第 10 回	6/20	「人間と自然」の個人史			阿部 治	
	第 11 回	6/27	日本語学と国語科教育との関わり			平井 吾門	
	第 12 回	7/4	実験心理学の世界			堀 耕治	
	第 13 回	7/11	自然に学び環境問題の解決を目指す化学研究			和田 亨	
	第 14 回	7/18	四季の変化に対する人体の適応			松山 伸一	
成績評価方法	平常点による評価						
教科書							
参考図書	必要に応じて、各担当教員がその講義の中で紹介します。						
その他 (HP 等)	必要に応じて講義情報が授業当日の午前 8 時までに授業支援システム(CANVAS LMS)に掲載されるので、必ず事前に当該サイトを確認し、資料や情報があるときは、そこに記載の指示に従ってください。						

科目コード	0G090	科目名	オムニバス講義「学問の世界 B」		必修基幹科目		
開講日程・時限	春学期・木曜日・4 時限		授業方式	対面		単位数	2 単位
備 考	専攻科必修科目						
授 業 の 目 標 と 内 容	RSSC ゼミナール担当教員と理学部教員が輪番で、それぞれ専門とする学問から魅力的なトピックを語ります。「学問の世界 A」が文系に力点を置いているのに対して、本科目は、理系の世界にも視野を広げ、人間の内面について、人間と社会の関係、人間と自然の関係について考える機会となるでしょう。選択科目は自分の興味に従って履修されがちです。必修科目は、自分の興味の狭い枠を超えて、その視野に入っていなかった問題に気づき、思わぬ発見をするチャンスです。新鮮な知の体験は、世界の見方を、自分自身の意識と振る舞いを変えます。こうした自己変革に繋がる学びの醍醐味を堪能するためにも、RSSC の学びとその姿勢について再考しましょう。それを促す講義は、冒頭の 2 回に限りません。						
授 業 計 画	テーマ						担当者
	第 1 回	4/11	RSSC の学びと自由な市民Ⅰ				渡辺 信二
	第 2 回	4/18	RSSC の学びと自由な市民Ⅱ				渡辺 信二
	第 3 回	4/25	身近な物理				平山 孝人
	第 4 回	5/9	2 項係数から数理ファイナンスへ				笥 三郎
	第 5 回	5/16	悪の動物行動学―子殺しから戦争まで―				上田 恵介
	第 6 回	5/23	身の回りの化学を感じてみましょう				箕浦 真生
	第 7 回	5/30	金星への旅				田口 真
	第 8 回	6/6	水素の元素科学と社会				松下 信之
	第 9 回	6/13	社会学のフィールドワーク				水上 徹男
	第 10 回	6/20	日本語を数える				平井 吾門
	第 11 回	6/27	税について考えよう				坂本 雅士
			―身近な疑問から世界の動きまで―				
	第 12 回	7/4	感染とは―理学的見地から―				眞島 恵介
	第 13 回	7/11	お金とは何だろうか？―商品か債務か？―				黒木 龍三
第 14 回	7/18	原子を「観る」				平山 孝人	
成績評価方法	平常点による評価						
教科書							
参考図書	必要に応じて、各担当教員がその講義の中で紹介します。						
その他（HP 等）	必要に応じて講義情報が授業当日の午前 8 時までに授業支援システム (CANVAS LMS) に掲載されるので、必ず事前に当該サイトを確認し、資料や情報があるときは、そこに記載の指示に従ってください。						

科目コード	OG400	科目名	本科ゼミナール・修了論文		必修基幹科目
科目コード	OG500	科目名	専攻科ゼミナール・修了論文		
開講日程・時限	通年 木曜日・5 時限			単位数	本 科 4 単位 専攻科 8 単位
備 考	本科および専攻科ともに必修・クラス指定				
授 業 の 目 標 と 内 容	ゼミナールの主な目的は修了論文の作成です。そのためのゼミナール活動は、これまでの人生経験を含めて各受講生が持っている知的な潜在能力を引き出し、共有化する共同作業といえます。本科も専攻科もともに、受講生はいずれかのゼミナールに所属します。ゼミナールでは、受講生が学習の主体となり、修了論文の作成を通じて、新たなセカンドステージ・ライフに乗り出す自信を培います。担当教員の役割は、助言・調整・提案等によって受講生の主体的な学習をサポートするものです。あくまで受講生の自主的・主体的活動が基本です。そのために、教員の出席する本ゼミと受講生だけで運営する自主ゼミとが概ね交互に実施され、ゼミごとの特色ある運営により、受講生相互の密な繋がりを構築します。それをネットワークの核として、セカンドステージ大学修了後の活動にも活かしてください。				
授 業 計 画	修了論文作成のスケジュールは、ゼミごとに担当教員との相談により決め、それにしたがって各自が計画を立てます。受講生はそれぞれ、セカンドステージ・ライフを見据えて自分たちが関心のあるテーマを発掘し、自主的な調査研究に従事します。論文は自分相手の私的なモノログではなく、他者とのコミュニケーションをはかるひとつの形式ですから、修了論文も公開を前提として執筆します。そのために、論文作成の中間段階では、研究発表と討論を通じて、クラスの仲間の意見を聴き、質疑応答を重ねることが大切です。それが、さまざまな観点からさまざまな問いを形成し、意見の違う人が納得できるように論じるための糧となって、研究のさらなる深化と発展にも繋がるはず です。講義科目の聴講や課外活動への参加の経験なども活かせるでしょう。RSSC の学びと活動の集大成といえるべき修了論文において、自分たちで選んだ課題にチャレンジする達成感 は格別です。その執筆は、課程を修了するために必修であり、修了後のセカンドステージ・ライフを満喫する第一歩でもあります。				
担当教員	本 科	阿部 治、李 旻珍、大野 久、栗田和明、佐々木一也、野田研一、野呂芳明、堀 耕治、松山伸一、和田 亨			
	専攻科	上田恵介、上田 信、黒木龍三、渡辺信二			
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	立教大学 大学教育開発・支援センター（発行）『MASTER OF WRITING』（第一回ゼミナールで配付）				
上記教科書以外の参考図書	必要に応じてゼミの中で紹介する。				
その他 (HP 等)					

科目コード	OG125	科目名	聖書と私	科目群	第1群
担当者	新井 美穂（アライ ミホ）				
開講日程・時限	秋学期・火曜日・5時限	授業方式	オンライン	単位数	2単位
備考					
授業の目標	聖書の学びを中心に、キリスト教に親しむ事を目標にします。聖書は私たちの姿や社会を炙り出します。この時代を生きる者として、自分を見つめ、互いを生かし合い（愛）、生かされ合う生き方の源泉を聖書から考えたいと思います。				
授業の内容	本講義は講義中心の「聖書」を通しての入門講座です。少し知的に、少し心に潤いの時間です。前半は旧約聖書の中のいくつかの箇所からイスラエルの神とメシアを待望する民の関係を見つめ、イスラエル史を概観し、神と人間、私たち自身について考えます。後半は福音書を中心に、イエス・キリストの教えと生涯が投げかける問いを探り、自分や社会を見つめ、聖書のメッセージに耳を傾けたいと思います。教会暦についても学びます（内容や形式は必要に応じて微修正を行います）。				
授業計画	第1回 9/24 キリスト教に親しむ～ユダヤ教とキリスト教の関係 第2回 10/1 聖書に親しむ～開き方から学び、創世記1章2章に学ぶ 第3回 10/8 エジプト脱出～旧約聖書の「神の選び」について考える 第4回 10/15 十戒について 第5回 10/22 イエス及び福音書記者の考える十戒の理解について 第6回 10/29 イスラエルの歴史～エジプト脱出後から王国成立まで 第7回 11/12 イスラエルの歴史～王国分裂と預言者の働き 第8回 11/19 イスラエルの歴史～バビロン捕囚と帰還 第9回 11/26 イスラエルの歴史～ヘレニズム世界の支配の下で 第10回 12/3 イエス・キリストについて～誕生物語その1 第11回 12/10 イエス・キリストについて～誕生物語その2 第12回 12/17 イエス・キリストについて～たとえ話・奇跡物語 第13回 1/14 イエス・キリストについて～受難物語 第14回 1/21 イエス・キリストについて～復活物語				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書	お持ちの聖書があればそれで構いません（必要なものはプリントします）。池澤夏樹、2012、『ぼくたちが聖書について知りたかったこと』、小学館、770円（税込）。ナウム・アティーク著、2019、『サビールの祈り パレスチナ解放の神学』（岩城聰訳）、教文館、2,420円（税込）。				
その他（HP等）					

科目コード	OG112	科目名	古典和歌を読む B		科目群	第 1 群
担当者	加藤 睦（カトウ ムツミ）					
開講日程・時限	春学期・金曜日・4 時限		授業方式	オンライン	単位数	2 単位
備 考						
授業の目標	平安時代の代表的な歌集である、『古今和歌集』の中から、四季の歌を味わいます。毎回十首程度の和歌（短歌）を取り上げて、そこに込められた心を読み解くとともに、表現手法の特性についても理解を深めます。					
授業の内容	『古今和歌集』を構成する部立て（主題による分類）の中から、春（上・下）、夏、秋（上・下）、冬の和歌を対象として、読解、鑑賞を行います。古典和歌を読解する際には、心（意味・心情）を読み取ることが、もちろん大切ですが、それとともに、表現の面白さ（知的な趣向・言葉のレトリックなど）を理解し、それに親しむことも重要です。心と表現の双方に目配りしながら、平易な解説を心がけます。					
授業計画	第 1 回 4/12 『古今和歌集』についての概説 第 2 回 4/19 春の歌を読む（1） 第 3 回 4/26 春の歌を読む（2） 第 4 回 5/10 春の歌を読む（3） 第 5 回 5/17 春の歌を読む（4） 第 6 回 5/24 春の歌を読む（5） 第 7 回 5/31 夏の歌を読む 第 8 回 6/7 秋の歌を読む（1） 第 9 回 6/14 秋の歌を読む（2） 第 10 回 6/21 秋の歌を読む（3） 第 11 回 6/28 秋の歌を読む（4） 第 12 回 7/5 秋の歌を読む（5） 第 13 回 7/12 冬の歌を読む 第 14 回 7/19 まとめ					
成績評価方法	平常点による評価					
講義中に直接使用する教科書	小町谷照彦、2010 年、『ちくま学芸文庫 古今和歌集』、筑摩書房、1,650 円（税込）。					
上 記 教 科 書 以 外 の 参 考 図 書						
その他（HP 等）						

科目コード	OG143	科目名	日本思想を名著でたどる		科目群	第1群
担当者	大熊 玄（オオクマ ゲン）					
開講日程・時限	秋学期・火曜日・1時限		授業方式	オンライン	単位数	2単位
備 考						
授業の目標	日本の古代から中世の思想を考える上で欠かせない14の文献を扱い、その内容に直接にふれることで日本思想を学び、考えます。					
授業の内容	この授業は、日本の古代から中世において何が考えられていたのか、文献の内容を現代語訳で理解し、その思想について考える日本思想の入門講座です。 受講者は、配布される原文や現代語訳を参考に、講師による各文献の思想の抽出・説明を聞き、思想的な教養を身につけるとともに、単に情報として受け止めるだけでなく、なぜそのように考えられたのか、その文献に込められた「想い」をとらえ、自分なりの思考を紡ぐ、日本「哲学」入門も目指します。					
授業計画	第1回 9/24 ガイダンス、「十七条憲法」7c 初 in『日本書紀』8c 初 第2回 10/1 『古事記』8c 初 第3回 10/8 『万葉集』7～8c 第4回 10/15 『古今和歌集』10c 初 第5回 10/22 『枕草子』10c 末 第6回 10/29 『日本霊異記』9c 初 第7回 11/12 『三教指帰』8c 末 第8回 11/19 『方丈記』13c 頭 第9回 11/26 『選択本願念仏集』12c 末 第10回 12/3 『歎異抄』13c 末 第11回 12/10 『正法眼蔵随聞記』13c 第12回 12/17 『立正安国論』13c 第13回 1/14 『徒然草』14c 第14回 1/21 『風姿花伝』15c * 扱う文献は進行状況や要望により変更されることがあります。					
成績評価方法	平常点による評価					
講義中に直接使用する教科書	資料は、オンライン授業支援システム「Canvas LMS」にて配布します。					
上 記 教 科 書 以 外 の 参 考 図 書						
その他（HP 等）						

科目コード	OG102	科目名	東洋思想からの問い	科目群	第1群
担当者	松本 秀士（マツモト ヒデシ）				
開講日程・時限	秋学期・火曜日・5時限	授業方式	オンライン	単位数	2単位
備考					
授業の目標	東洋思想の中でも、今日に脈々と流れ続ける中国の伝統的思想を、漢詩・故事・伝統医学を含む諸説等から取り上げながら読み解きたい。とくに、現代社会を支配するいわゆる西洋的価値観を乗り越えた上での伝統思想の本質的意義を探究したい。				
授業の内容	中国に古くより伝わる漢詩・故事・伝統医学を含む諸説等を原語（現代中国語を含む漢文）で講読しながら、その根底にある伝統的思想の特質を直読的に読み解いていく。そのことを通して独特の思考的リズムを感じながら、漢文を構成する漢字一文字一文字が本来備える思想的重みを体得することで、現代人が見失ってきた本質意義を探究したい。また今日の中国の概況にも触れることで、現代に継承される伝統的思想についても触れる。なお漢文・中国語の学習歴は問わない。				
授業計画	第1回 9/24 ガイダンス（当授業における探究法等について） 第2回 10/1 現代中国における言語政策と現代中国語 第3回 10/8 現代中国にみる古都 第4回 10/15 現代中国における都市づくり 第5回 10/22 漢字文化とそのメッセージ性 第6回 10/29 漢詩を構成する自然科学的視点 第7回 11/12 中国故事・説話にみる自然科学的視点 第8回 11/19 中国古代の“道徳” 第9回 11/26 “タオ”の原理 第10回 12/3 中国伝統医学にみる身体論 第11回 12/10 中国伝統医学にみる食の原理 第12回 12/17 中国伝統医学にみる薬の原理 第13回 1/14 中国伝統の養生思想にみる原理 第14回 1/21 総括 * ゲストスピーカーを予定している				
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価				
講義中に直接使用する教科書	資料ファイルをデジタル配布する。				
上記教科書以外の参考図書	王力、1962、『古代漢語』、中華書局。 蜂屋邦夫訳註、2008、『老子』、岩波文庫、1,188円（税込）。 南京中医学院医経教研組、1991、『黄帝内経素問 上・中・下巻』、東洋学術出版社。				
その他（HP等）					

科目コード	OG178	科目名	現代中国のメディア	科目群	第1群
担当者	森平 崇文（モリダイラ タカフミ）				
開講日程・時限	春学期・金曜日・3時限	授業方式	オンライン	単位数	2単位
備考					
授業の目標	現在進行形の中国を理解するためには、中国に対するステレオタイプから一端離れることが求められます。21世紀以降の中国メディアを題材にして、現代中国に対するリテラシーを高めることがこの授業の目標です。				
授業の内容	現在の中国の体制は1978年からスタートしましたが、その変貌が加速度的になったのは21世紀に入ってからです。この講義では、21世紀中国のメディアを考える上で重要と思える作品、人物、ワード、事件等を、映像資料を用いながら紹介することを通じ、21世紀中国社会の変容や現代中国人が直面する諸問題について解説していきます。				
授業計画	第1回 4/12 現代中国と日本のメディア 第2回 4/19 現代中国の日本論 第3回 4/26 中国ドラマが描く「家」 第4回 5/10 テレビ・ドキュメンタリーの誕生：CCTV『新聞調査』 第5回 5/17 オーディション番組の隆盛：『超級女声』～『創造営 2021』 第6回 5/24 抗日ドラマ・映画の世界 第7回 5/31 中国における漫オブームの背景 第8回 6/7 孔子の復活と教養番組『百家講壇』 第9回 6/14 ハリウッド映画の解禁と中国映画界 第10回 6/21 出版における発禁と検閲：章詒和と閻連科を例に 第11回 6/28 作家たちのメディア戦略：韓寒、郭敬明、蒋方舟 第12回 7/5 ラジオが果たす役割の変容：出稼ぎと人生相談 第13回 7/12 陳丹青とアイウェイウェイ：体制外の芸術家たち 第14回 7/19 コロナ以降の中国とメディア				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	特にありません。授業内でレジュメを共有します。				
上記教科書以外の参考図書	授業内で紹介していきます。				
その他（HP等）	中国語学習歴や中国語圏滞在歴は問いません。字幕がないものの映像資料を紹介する場合は逐次通訳します。				

科目コード	OG149	科目名	自由な市民のための映画学入門	科目群	第1群
担当者	中村 秀之（ナカムラ ヒデユキ）				
開講日程・時限	秋学期・水曜日・4時限		授業方式	対面	単位数 2単位
備考					
授業の目標	映画を「作品」として深く理解し味わうための基本を習得する。 映画を娯楽として消費するだけの受け身の姿勢から脱却することをめざす。				
授業の内容	この授業では、映画をディスクやネット配信で楽しむことができるようになった現状を踏まえて、映画の「作品」としての特性と、表現の基本的な規則や技法を解説します。山中貞雄監督（1909-1938）のそれぞれタイプの異なる3本の傑作を対象として、作品の全体を観覧し、物語（構成、内容、語り口など）とスタイル（映像と音響の技法）の両面から検討を加えます。また、特に重要な場면을集中的に研究し、作品の理解を深めます。				
授業計画	第1回 9/25 イントロ。『丹下左膳餘話 百萬兩の壺』（1935年）観覧① 第2回 10/2 『百萬兩の壺』観覧②（つづき） 第3回 10/9 『百萬兩の壺』物語の検討 第4回 10/23 『百萬兩の壺』スタイルの検討 第5回 10/30 『百萬兩の壺』主要場面の研究 第6回 11/6 『河内山宗俊』（1936年）観覧 第7回 11/13 『河内山宗俊』物語の検討 第8回 11/20 『河内山宗俊』スタイルの検討 第9回 11/27 『河内山宗俊』主要場面の検討 第10回 12/4 『人情紙風船』（1937年）観覧 第11回 12/11 『人情紙風船』物語の検討 第12回 12/18 『人情紙風船』スタイルの検討 第13回 1/8 『人情紙風船』主要場面の研究 第14回 1/15 まとめ				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	プリントを配布します。				
上記教科書以外の参考図書	D. ボードウェル、K. トンプソン、2007、『フィルム・アート——映画芸術入門』（藤木秀朗監訳）、名古屋大学出版会。 その他、授業の中で紹介し、適宜、コピーを配布します。				
その他（HP等）	教材の配布や連絡等に SPIRIT Gmail、Canvas LMS、Google ドライブを利用します。				

科目コード	OG160	科目名	現代美術に親しむ	科目群	第1群
担当者	菊池 敏直（キクチ トシナオ）				
開講日程・時限	秋学期・火曜日・2時限	授業方式	オンライン	単位数	2単位
備考					
授業の目標	① 「見たもの」をもっとよく見ようとする ② 「見えないもの」も見ようと思う ③ 「美術」が近しく思えるようになる				
授業の内容	まず各々過去の「ものの見方」を振り返りましょう。次に作品を通して「美術的ものの見方」の例をいくつか挙げます。で「見ること」を考察しましょう。ワタシと美術と社会の関係性を俯瞰し、私達が見、接し、感じ、考える、生きていること、そこで抱く疑問と「表現」が結びつくように「問うこと」を反復しましょう。今日在る美術の成立過程、20世紀美術の概略も少々解説します。『現代美術』と呼ばれる造形表現のイメージを掴み親しむためのアシスト。				
授業計画	第1回 9/24 自分史と美術 第2回 10/1 鳥の声 第3回 10/8 見ることと目の仕組み・名画 第4回 10/15 20世紀美術略説① 第5回 10/22 鳥の声を見る 第6回 10/29 ○△□ 第7回 11/12 20世紀美術略説② 第8回 11/19 水のカタチ 第9回 11/26 20世紀美術略説③ 第10回 12/3 嗜好と思考と志向 第11回 12/10 極少の美学 第12回 12/17 開放／閉鎖 第13回 1/14 作品とモノと表現とワタシ 第14回 1/21 鏡を見ながらもう一度「見る」を考える ＊授業回で内容が前後することあり				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書	ゴンブリッジ、E・H、2011、『美術の物語』（ポケット版）、PHAIDON、2,310円（税込）。暮沢剛己、2009、『現代美術のキーワード100』、ちくま新書、945円（税込）。山本浩貴、2019、『現代美術史-欧米日本トランスナショナル』、中公新書、1,056円（税込）。				
その他（HP等）					

科目コード	OG175	科目名	歌が照らす人と社会	科目群	第1群
担当者	佐藤 壮広 (サトウ タケヒロ)				
開講日程・時限	夏期集中 8月27日、28日、29日(10:00~17:00)	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	昭和から令和までの歌謡曲、J-pop など流行歌を題材とし、それらが照らす時代状況や人模様を読みとき、ヤングからシニアにかけての音楽文化について考察することが、本授業の目標です。				
授業の内容	私たちは、幼少期には童謡、学童期には唱歌、クラシック、青年期には歌謡曲、フォーク、洋楽、演歌など多くの音・歌にふれます。音楽は時代状況が反映された文化のひとつであり、聴くひとの記憶としても保持されます。授業では、多くの歌と一緒に聴き、それぞれの「記憶の扉」を開け、時代と社会を考察します。キーワードは「メモリー・スケープ」です。				
授業計画	第1日 第1回 歌と社会史:時代の記憶・歌と「メモリースケープ」 第2回 戦前・戦中・戦後の歌謡、ジャズブーム、望郷・都会調歌謡 第3回 ビートルズ来日とGSブーム、日本のロック 第4回 フォーク、ニューミュージック、アイドル歌謡 第5回 J-POP、テクノ、ワールドミュージック 第2日 第6回 広告・CMソングと時代 第7回 洋楽ヒット・チャートの受容 第8回 シティポップ(1)グローバルな音楽シーンの受容 第9回 シティポップ(2)日本歌謡の再帰的展開 第10回 ラップと日本語の表現文化(1)「4拍子文化論」と日本のうた 第3日 第11回 ラップと日本語の表現文化(2)リズムと音韻 第12回 演歌と日本のこころ(1): 演歌、艶歌、ムード歌謡 第13回 演歌と日本のこころ(2): 八代亜紀、北島三郎ほか 第14回 まとめ:「私のこの1曲」からみる人と社会と時代				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書	北中正和、2003、『増補にほんのうた 戦後歌謡曲史』、平凡社、1,430円(税込)。 田家秀樹、2004、『読む J-POP 1945-2004』、朝日新聞社、740円(税込)。 高護、2011、『歌謡曲 時代を彩った歌たち』、岩波新書、880円(税込)。				
その他(HP等)					

科目コード	0G177	科目名	フランスの政治・社会・文化	科目群	第1群
担当者	橋本 晃（ハシモト アキラ）				
開講日程・時限	春学期・火曜日・5時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	英語と米英の視点・価値観に基づく世界像に覆い尽くされ、自らは経済・ビジネス一辺倒の日本だが、世界に冠たる文化や世界第二位の外交網を誇る大陸欧州の、英米とは異なる文明原理に触れ、重層的な世界・国際関係理解の一助とする。				
授業の内容	フランス文明の諸相を、古代ギリシア・ローマ以来の歴史（タテ）と同時代の国際関係（ヨコ）の両面から講義する。具体的には、言語・仏語圏、永遠の都パリ、政治・外交、荒れる郊外、デモ、エリート教育、第七芸術（映画）、地域、対米関係、欧州連合（EU）などを扱う。日本とは対極の文明を理解するために、日本人にとってのアタリマエを相対化し、柔軟な想像力が求められる。講義では様々な逸話にも触れるが、一見周縁的な細部にこそ神が宿ることも理解されたい。				
授業計画	第1回 4/16 はじめに 世界の中のフランスとフランス語圏 第2回 4/23 パリ たゆたえども沈まぬ都 第3回 4/30 言語 リンガフランカ 第4回 5/7 政治 共和国 ライシテ 二大政党の凋落とポピュリズム 第5回 5/14 荒れる郊外・移民 第6回 5/21 デモ 赤いフリジア帽～夜、起ち上がれ～黄色いベスト 第7回 5/28 エリート主義教育 第8回 6/4 第七芸術 映画 第9回 6/11 ミディ オク語のくに、カタリのくに 第10回 6/18 ブルターニュ ケルトの古層と地の果て 第11回 6/25 対米関係 パリのアメリカ人 第12回 7/2 EU フランス式庭園としての欧州 第13回 7/9 ワイン 第14回 7/16 まとめ				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書	プラット、ポリー、2017、『フランス人 この奇妙な人たち』（桜内篤子訳）、CCCメディアハウス、1,980円（税込）。				
その他（HP等）	毎回リアクションペーパーを授業翌日ㄨ切で書いてもらう。質問は口頭で受ける。				

科目コード	OG128	科目名	グローバル社会とメディアの使命	科目群	第1群
担当者	三浦 元（ミウラ ハジメ）				
開講日程・時限	秋学期・月曜日・4時限		授業方式	対面	単位数 2単位
備考					
授業の目標	メディアの歴史や人権に係わる報道の役割・使命等の基本を学ぶ。同時に、技術革新による番組制作の現状を把握する。受講生が「自ら考え・判断し・意見を述べる」能力や「感想や見識を表明する」能力をより一層高める。				
授業の内容	メディアを学ぶ「メディアリテラシー」社会と深く係わる総ての現代人にとってのリベラル・アーツ。イスラエルハマス紛争・ロシアウクライナ侵攻・終息の見えない新型コロナウイルス感染等で流動的で不透明な世界の政治・経済・軍事情勢。より深化する米中覇権争い。スーパーハイビジョン、コンピュータ技術、スマホ展開活用の「新映像時代」の解析。放送と通信の融合が進展する中で地球的規模の課題から身近な問題をめぐるメディア報道・番組制作の舞台裏を説く。				
授業計画	第1回 9/30 ガイダンス～晴れた空は青く夕焼けは紅い？Whyの重要性～ 第2回 10/7 イスラエルハマス紛争・新型コロナ～生命を守る報道の矜持～ 第3回 10/21 気候クライシス～地球温暖化の警告～ 第4回 10/28 エドワード・マロー～テレビジャーナリズムの心柱～ 第5回 11/11 ハゲワシと少女～報道か生命か～ 第6回 11/18 ハンセン病～差別とどう向き合うか～ 第7回 11/25 ドキュメンタリー番組とは～現代のベートーベンの罪～ 第8回 12/2 スーパースター太谷翔平～舞台裏で支えた男達の群像～ 第9回 12/9 五輪とテレビ～2人3脚の発展と課題～ 第10回 12/16 障害者スポーツの神髄 第11回 12/23 コンピュータ 創造の世界～名画修復・ディズニーアニメ～ 第12回 1/20 プレゼンテーションの極意				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	NHK 放送文化研究所、2002、『放送の20世紀』、NHK 出版、2,000円（税抜）。 吉岡友治、2013、『いい文章には型がある』、PHP 新書、760円（税抜）。 望月和彦、2003、『ディベートのすすめ』、有斐閣選書、2,100円（税抜）。				
上記教科書以外の参考図書					
その他（HP等）	一連の講義終了後この講義での成果を踏まえ NHK の放送センターや 放送技術研究所等の現場見学等も検討。先方の都合で日程は未定。				

科目コード	0G133	科目名	ジャーナリズムと法 B		科目群	第 1 群																																										
担当者	服部 孝章（ハットリ タカアキ）																																															
開講日程・時限	春学期・水曜日・4 時限		授業方式	対面	単位数	2 単位																																										
備 考																																																
授業の目標	国などによる規制以上に市民社会全体に、表現活動への自粛が進んでいる。市民社会の民主化は衰退していることへの対応を考える。																																															
授業の内容	デジタル化の進展と、市民の自粛の連動が今後どのような状況を招くのかを推測し、あわせてあるべき姿を模索する。																																															
授業計画	<table><tr><td>第 1 回</td><td>4/10</td><td>記憶の外脳化とメディア</td></tr><tr><td>第 2 回</td><td>4/17</td><td>メディアの規制への無気力</td></tr><tr><td>第 3 回</td><td>4/24</td><td>GAFA のメディア支配</td></tr><tr><td>第 4 回</td><td>5/8</td><td>放送産業の斜場化</td></tr><tr><td>第 5 回</td><td>5/15</td><td>ジャーナリズムと法</td></tr><tr><td>第 6 回</td><td>5/22</td><td>米国の状況</td></tr><tr><td>第 7 回</td><td>5/29</td><td>日韓の状況</td></tr><tr><td>第 8 回</td><td>6/5</td><td>NHK ばなれの深化</td></tr><tr><td>第 9 回</td><td>6/12</td><td>NHK への期待はあるのか？</td></tr><tr><td>第 10 回</td><td>6/19</td><td>受信料制度の行方</td></tr><tr><td>第 11 回</td><td>6/26</td><td>放送制度の変容</td></tr><tr><td>第 12 回</td><td>7/3</td><td>報道機関の将来像</td></tr><tr><td>第 13 回</td><td>7/10</td><td>日本のメディアの将来</td></tr><tr><td>第 14 回</td><td>7/17</td><td>まとめ、討論</td></tr></table>						第 1 回	4/10	記憶の外脳化とメディア	第 2 回	4/17	メディアの規制への無気力	第 3 回	4/24	GAFA のメディア支配	第 4 回	5/8	放送産業の斜場化	第 5 回	5/15	ジャーナリズムと法	第 6 回	5/22	米国の状況	第 7 回	5/29	日韓の状況	第 8 回	6/5	NHK ばなれの深化	第 9 回	6/12	NHK への期待はあるのか？	第 10 回	6/19	受信料制度の行方	第 11 回	6/26	放送制度の変容	第 12 回	7/3	報道機関の将来像	第 13 回	7/10	日本のメディアの将来	第 14 回	7/17	まとめ、討論
第 1 回	4/10	記憶の外脳化とメディア																																														
第 2 回	4/17	メディアの規制への無気力																																														
第 3 回	4/24	GAFA のメディア支配																																														
第 4 回	5/8	放送産業の斜場化																																														
第 5 回	5/15	ジャーナリズムと法																																														
第 6 回	5/22	米国の状況																																														
第 7 回	5/29	日韓の状況																																														
第 8 回	6/5	NHK ばなれの深化																																														
第 9 回	6/12	NHK への期待はあるのか？																																														
第 10 回	6/19	受信料制度の行方																																														
第 11 回	6/26	放送制度の変容																																														
第 12 回	7/3	報道機関の将来像																																														
第 13 回	7/10	日本のメディアの将来																																														
第 14 回	7/17	まとめ、討論																																														
成績評価方法	平常点による評価																																															
講義中に直接使用する教科書	テーマに関連した新聞記事、参考文献等を配布する。																																															
上 記 教 科 書 以 外 の 参 考 図 書	随時、紹介する。																																															
その他（HP 等）																																																

科目コード	OG254	科目名	現代化学の成果と社会生活			科目群	第1群																																				
担当者	宮部 寛志（ミヤベ カンジ）																																										
開講日程・時限	秋学期・月曜日・5時限			授業方式	対面	単位数	2単位																																				
備 考																																											
授業の目標	化学の歴史を辿ってその基礎に触れ、応用技術が社会に与えた恩恵と影響を知って現代にもつながる課題を考察する。化学の進展に携わった人々の人物像や人生という観点からも化学の歩みを捉え、身近な教養としての化学の理解を深める。																																										
授業の内容	人類は如何に現代化学の理解に到達したのか。どのような人物が化学を進展させ、彼らはどのような人生を送ったのか。主に化学の領域に焦点を絞って人類の自然観・物質観の変遷を俯瞰し、現在に至る化学の歴史を振り返る。また、応用技術の開発や利用の過程で顕在化した様々な問題を考察し、化学の展開に我々は如何に向き合うのかを考える契機とする。化学の基礎知識だけではなく、化学の進展に関わった人々の姿や社会的背景等をも踏まえ、化学の多角的な理解を志向する。																																										
授業計画	<table><tr><td>第1回</td><td>9/30</td><td>ガイダンス、古代～中世の自然観・物質観の変遷</td></tr><tr><td>第2回</td><td>10/7</td><td>化学革命（現代化学の黎明期）、原子論復活と分子説の展開</td></tr><tr><td>第3回</td><td>10/21</td><td>元素の発見（金属・気体・貴ガス）、周期律の認識</td></tr><tr><td>第4回</td><td>10/28</td><td>原子の探求（電子・陽子の発見）、X線の発見と原子番号</td></tr><tr><td>第5回</td><td>11/11</td><td>原子構造・電子配置の解明、量子力学、有機化学の草創</td></tr><tr><td>第6回</td><td>11/18</td><td>工業化学の発展（人工染料の合成・ナイロンの発明）</td></tr><tr><td>第7回</td><td>11/25</td><td>大気を変える錬金術（第1回）、化学結合・分子構造</td></tr><tr><td>第8回</td><td>12/2</td><td>大気を変える錬金術（第2回）</td></tr><tr><td>第9回</td><td>12/9</td><td>代表的医薬品の概観、抗生物質（サルバルサン）の開発</td></tr><tr><td>第10回</td><td>12/16</td><td>抗生物質（サルファ剤・ペニシリン）の開発</td></tr><tr><td>第11回</td><td>12/23</td><td>精密分離技術の開発（アミノ酸分析からHPLCへの進展）</td></tr><tr><td>第12回</td><td>1/20</td><td>DDT（有機塩素系殺虫剤）、フロン（冷媒）、まとめ</td></tr></table>							第1回	9/30	ガイダンス、古代～中世の自然観・物質観の変遷	第2回	10/7	化学革命（現代化学の黎明期）、原子論復活と分子説の展開	第3回	10/21	元素の発見（金属・気体・貴ガス）、周期律の認識	第4回	10/28	原子の探求（電子・陽子の発見）、X線の発見と原子番号	第5回	11/11	原子構造・電子配置の解明、量子力学、有機化学の草創	第6回	11/18	工業化学の発展（人工染料の合成・ナイロンの発明）	第7回	11/25	大気を変える錬金術（第1回）、化学結合・分子構造	第8回	12/2	大気を変える錬金術（第2回）	第9回	12/9	代表的医薬品の概観、抗生物質（サルバルサン）の開発	第10回	12/16	抗生物質（サルファ剤・ペニシリン）の開発	第11回	12/23	精密分離技術の開発（アミノ酸分析からHPLCへの進展）	第12回	1/20	DDT（有機塩素系殺虫剤）、フロン（冷媒）、まとめ
第1回	9/30	ガイダンス、古代～中世の自然観・物質観の変遷																																									
第2回	10/7	化学革命（現代化学の黎明期）、原子論復活と分子説の展開																																									
第3回	10/21	元素の発見（金属・気体・貴ガス）、周期律の認識																																									
第4回	10/28	原子の探求（電子・陽子の発見）、X線の発見と原子番号																																									
第5回	11/11	原子構造・電子配置の解明、量子力学、有機化学の草創																																									
第6回	11/18	工業化学の発展（人工染料の合成・ナイロンの発明）																																									
第7回	11/25	大気を変える錬金術（第1回）、化学結合・分子構造																																									
第8回	12/2	大気を変える錬金術（第2回）																																									
第9回	12/9	代表的医薬品の概観、抗生物質（サルバルサン）の開発																																									
第10回	12/16	抗生物質（サルファ剤・ペニシリン）の開発																																									
第11回	12/23	精密分離技術の開発（アミノ酸分析からHPLCへの進展）																																									
第12回	1/20	DDT（有機塩素系殺虫剤）、フロン（冷媒）、まとめ																																									
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価																																										
講義中に直接使用する教科書	教科書はありません。パワーポイント画面を使用して講義を行います。																																										
----- 上記教科書以外の参考図書	話題が多岐に亘りますので、特定の参考書はありません。																																										
その他（HP等）																																											

科目コード	OG179	科目名	数理のマジカル・ミステリー・ツアー	科目群	第1群
担当者	浜田 忠久（ハマダ タダヒサ）				
開講日程・時限	春学期・月曜日・5時限		授業方式	対面	単位数 2単位
備考					
授業の目標	日常生活や多様な課題解決に活用できる数学的リテラシーの養成を目指します。また、合理的な思考力と判断力を高めることで、論理的かつ創造的な問題解決能力を身につけることを目標とします。				
授業の内容	市民一人ひとりが情報やデータを批判的に読み解き、合理的に判断する力をつけることは、公平で公正な市民社会の実現に必要不可欠です。パズルやゲームを通じて、数理的思考法を楽しく学び、実世界の様々な課題解決に応用する方法を探究します。また、数学がもつ無限の可能性に触れ、物事の本質を深く理解する喜びを共有することで、創造的かつ批判的な思考力を育てます。				
授業計画	第1回 4/15 [実習] トランプ・ゲーム「360」（数学的推理を養うゲーム） 第2回 4/22 エンツェンスベルガーと『数の悪魔』 第3回 5/13 【ゲストスピーカー登壇予定】 第4回 5/27 [実習] 誕生日のパラドックスを掘り下げる 第5回 6/3 音律の数理的探究 ～ピタゴラスから現代音楽まで 第6回 6/10 【ゲストスピーカー登壇予定】 第7回 5/20 アラビアンナイトの計算術 ～数のしくみで瞬時に速算！ 第8回 6/17 素因数色彩 ～プラトンの示唆から見た数のプリズム 第9回 6/24 [実習] 折り紙で作る正多面体 第10回 7/1 フラクタルの神秘 第11回 7/8 調和級数 ～はてしない物語				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書	エンツェンスベルガー、2000、『数の悪魔——算数・数学が楽しくなる12夜』、晶文社、1,980円(税込)。				
その他（HP等）					

科目コード	OG152	科目名	アメリカ研究入門	科目群	第1群
担当者	生井 英考（イクイ エイコウ）				
開講日程・時限	春学期・水曜日・5時限		授業方式	対面	単位数 2単位
備考					
授業の目標	現代史のできごとを媒介に、履修生のみなさん自身の体験をふまえて時代と社会と文化についての考察を深めることを目標とします。				
授業の内容	主題は「ヴェトナム戦争から半世紀を前に——記憶・映画・歴史」 来年 2025 年はヴェトナム戦争が終わってちょうど半世紀にあたります。おそらく履修生のみなさんの多くにとって、ヴェトナム戦争は同時代的な記憶をともなった出来事だったはずです。それを振り返りつつ、またヴェトナム戦争映画を分析対象としながら考察を深めます。課題としていろいろな映画を観ていただくことになりますので、映画のお好きな方（但し戦争映画）にもおすすめします。				
授業計画	第1回 4/10 はじめに 第2回 4/17 ヴェトナム戦争とその時代（1） 第3回 4/24 ヴェトナム戦争の時代と私（1） 第4回 5/8 ヴェトナム戦争とその時代（2） 第5回 5/15 ヴェトナム戦争の時代と私（2） 第6回 5/22 ヴェトナム戦争とその時代（3） 第7回 5/29 ヴェトナム戦争の時代と私（3） 第8回 6/5 戦後の社会と戦争の記憶（1） 第9回 6/12 戦後の社会と戦争の記憶（2） 第10回 6/19 戦後の社会と戦争の記憶（3） 第11回 6/26 半世紀の現代史（1） 第12回 7/3 半世紀の現代史（2） 第13回 7/10 半世紀の現代史（3） 第14回 7/17 まとめ				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	生井英考『ジャングル・クルーズにうってつけの日——ヴェトナム戦争の文化とイメージ』（岩波現代文庫）、1,892円（税抜）。				
上記教科書以外の参考図書					
その他（HP等）					

Course number	OG176	Title	Media Studies			Course group	I
Instructor	Hwang, Seongbin (黄 盛彬)						
Period	Spring, Friday, 2 th period			Class	Online	Credits	2
Remarks							
Course Objectives	This course introduces key concepts and contemporary critical issues in communication and media studies. It will allow students to engage with the principles of journalism, sociological understandings of media production, and critical media/cultural studies issues.						
Course Description	It will focus on several key concepts and critical areas in the sociological and cultural study of communication and media/cultural studies, including the media industries' news-making process, history, organization, and production. The analysis of media representation is also covered, such as the issue of identity and gender. Along with lectures by the instructor, students are encouraged to have their topics for a term paper and submit a critical essay based on the course readings and their analytical reading of the current issues and affairs of their interests.						
Class schedule	Lesson 1: 4/12 Introduction: Why Study the Media? Lesson 2: 4/19 Understanding Media Industries Lesson 3: 4/26 Producing Media/Changing Media Industries Lesson 4: 5/10 Media, Politics and the Public Sphere/ Media Regulation Lesson 5: 5/17 The Meaning of Media Texts/ The Power of Media Texts Lesson 6: 5/24 The Power of Media Texts Lesson 7: 5/31 Media, Representation and Identity Lesson 8: 6/7 Media, Representation and Gender Lesson 9: 6/14 Media Effects Lesson 10: 6/21 Media Audiences Lesson 11: 6/28 Consuming Media Technologies Lesson 12: 7/5 Media Fandom Lesson 13: 7/12 Globalization and the Media Lesson 14: 7/19 Student Presentation						
Evaluation	Attendance and class participation including presentation and term paper.						
Textbooks	Hollows, Joanne, 2016, <i>Media Studies: A Complete Introduction</i> , Teach Yourself						
Readings	Additional readings will be introduced in class, taking into account areas of interest to students.						
Other Information	The lecturer will speak in both languages, Japanese and English, and students can participate in-class activities such as in-class discussion in both languages. 授業は英語と日本語の2言語で運営しますが、高い英語力を履修の前提とはしていません。英語のテキストは平易なレベルで書かれており、日本語で意味を確認しながら進めることにします。またクラス内のディスカッションにおいても、できるだけ受講生の英語力に合わせて運営していきたいので、積極的な履修を推奨します。						

科目コード	0G239	科目名	プラチナ社会におけるアクティブシニア論	科目群	第2群
担当者	松田 智生（マツダ トモオ）				
開講日程・時限	秋学期・水曜日・5時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	活力ある高齢社会を示す「プラチナ社会」において、RSSCの修了後にどのようなセカンドステージを歩んでいくか、国内と海外の好事例をもとに、学び×生活×多世代×ビジネスの視点を交えながらアクティブシニア論を展開する。				
授業の内容	次の授業計画に基づきアクティブシニアの基本要素と国内と海外の好事例を紹介する。一方通行の座学でなく、受講生同士のディスカッションを重視し、講義→討議→共有→演習の実践的且つ双方向な授業を展開する。 毎回、前回の講義のフィードバックを行い、授業の理解度や進捗状況を把握しながら有効に進める。				
授業計画	第1回 9/25 プラチナ社会総論（授業ガイダンスを含む） 第2回 10/2 アクティブシニアと新たな市場 第3回 10/9 アクティブシニアと新たな大学 第4回 10/23 アクティブシニアとまちづくり 第5回 10/30 アクティブシニアの挑戦に学ぶ 第6回 11/6 アクティブシニアのセカンドステージプラン検討 第7回 11/13 アクティブシニアのセカンドステージプラン発表 第8回 11/20 アクティブシニアのフィールドワーク 第9回 11/27 海外に学ぶアクティブシニアのライフスタイル 第10回 12/4 アクティブシニアと地方創生 第11回 12/11 アクティブシニアと多世代交流 第12回 12/18 アクティブシニアと大学連携型コミュニティ① 第13回 1/8 アクティブシニアと大学連携型コミュニティ② 第14回 1/15 研究発表・今期の総括				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	松田智生、2017、『日本版 CCRC がわかる本』、法研、2,500円（税別）。 松田智生、2020、『明るい逆参勤交代が日本を変える』、事業構想大学院大学、1,500円（税別）。				
上記教科書以外の参考図書					
その他（HP等）	松田智生 インタビュー 多世代が輝く「プラチナ社会」が日本の未来を創る。 https://kaishi-pu.ac.jp/matsuda-tomoo （開志専門職大学）				

科目コード	OG226	科目名	修了生が語るアクティブシニアの生き方		科目群	第 2 群																																										
担当者	栗田 和明（クリタ カズアキ）																																															
開講日程・時限	秋学期・金曜日・4 時限		授業方式	対面	単位数	2 単位																																										
備 考																																																
授業の目標	RSSC は 2024 年度を迎え、創立以来の修了生は 1,300 名を超えるが、修了後の RSSC 社会貢献活動サポートセンター登録研究会での活動、個人やグループでの アクティブな活動や社会とのかかわりをトレースし、これから私達の生き方や社会との 交流のあり方に貴重な指針とヒントを得る機会にする。																																															
授業の内容	1. サポートセンター登録研究会（以下、SC 研究会）からの発表。修了生からのキャリア・特技・趣味、RSSC での学びと人的ネットワークを活かしたコミュニティでの交流や社会貢献活動等の多様な事例を発表。2. 発表・質疑応答やグループディスカッションを通じ、活動の立上げや運営の難しさ、今後の課題等を理解する。毎回タイムリーなフィードバックも行う。3. これからの自分の生き方や人生設計を考察する。																																															
授業計画	<table><tr><td>第 1 回</td><td>9/20</td><td>「アクティブシニアの多様な生き方を探る」(担当教員)</td></tr><tr><td>第 2 回</td><td>9/27</td><td>SC 研究会の事例発表(3 件)</td></tr><tr><td>第 3 回</td><td>10/4</td><td>SC 研究会の事例発表(3 件)</td></tr><tr><td>第 4 回</td><td>10/11</td><td>SC 研究会の事例発表(3 件)</td></tr><tr><td>第 5 回</td><td>10/18</td><td>SC 研究会の事例発表(2 件)</td></tr><tr><td>第 6 回</td><td>10/25</td><td>グループディスカッションとまとめ・発表会①</td></tr><tr><td>第 7 回</td><td>11/8</td><td>個人・グループの社会貢献活動の事例紹介(1～2 件)</td></tr><tr><td>第 8 回</td><td>11/22</td><td>個人・グループの社会貢献活動の事例紹介(1～2 件)</td></tr><tr><td>第 9 回</td><td>11/29</td><td>NPO 法人の社会貢献活動の事例紹介(1～2 件)</td></tr><tr><td>第 10 回</td><td>12/6</td><td>RSSC 同窓会及び同窓会事業の事例紹介(3 件)</td></tr><tr><td>第 11 回</td><td>12/13</td><td>グループディスカッションとまとめ・発表会②</td></tr><tr><td>第 12 回</td><td>12/20</td><td>受講生個人のこれからの生き方・人生設計の発表①</td></tr><tr><td>第 13 回</td><td>1/10</td><td>受講生個人のこれからの生き方・人生設計の発表②</td></tr><tr><td>第 14 回</td><td>1/17</td><td>授業の総括と感想文の作成</td></tr></table> * 具体的登壇研究会名、修了者名などは授業開始時に発表する。						第 1 回	9/20	「アクティブシニアの多様な生き方を探る」(担当教員)	第 2 回	9/27	SC 研究会の事例発表(3 件)	第 3 回	10/4	SC 研究会の事例発表(3 件)	第 4 回	10/11	SC 研究会の事例発表(3 件)	第 5 回	10/18	SC 研究会の事例発表(2 件)	第 6 回	10/25	グループディスカッションとまとめ・発表会①	第 7 回	11/8	個人・グループの社会貢献活動の事例紹介(1～2 件)	第 8 回	11/22	個人・グループの社会貢献活動の事例紹介(1～2 件)	第 9 回	11/29	NPO 法人の社会貢献活動の事例紹介(1～2 件)	第 10 回	12/6	RSSC 同窓会及び同窓会事業の事例紹介(3 件)	第 11 回	12/13	グループディスカッションとまとめ・発表会②	第 12 回	12/20	受講生個人のこれからの生き方・人生設計の発表①	第 13 回	1/10	受講生個人のこれからの生き方・人生設計の発表②	第 14 回	1/17	授業の総括と感想文の作成
第 1 回	9/20	「アクティブシニアの多様な生き方を探る」(担当教員)																																														
第 2 回	9/27	SC 研究会の事例発表(3 件)																																														
第 3 回	10/4	SC 研究会の事例発表(3 件)																																														
第 4 回	10/11	SC 研究会の事例発表(3 件)																																														
第 5 回	10/18	SC 研究会の事例発表(2 件)																																														
第 6 回	10/25	グループディスカッションとまとめ・発表会①																																														
第 7 回	11/8	個人・グループの社会貢献活動の事例紹介(1～2 件)																																														
第 8 回	11/22	個人・グループの社会貢献活動の事例紹介(1～2 件)																																														
第 9 回	11/29	NPO 法人の社会貢献活動の事例紹介(1～2 件)																																														
第 10 回	12/6	RSSC 同窓会及び同窓会事業の事例紹介(3 件)																																														
第 11 回	12/13	グループディスカッションとまとめ・発表会②																																														
第 12 回	12/20	受講生個人のこれからの生き方・人生設計の発表①																																														
第 13 回	1/10	受講生個人のこれからの生き方・人生設計の発表②																																														
第 14 回	1/17	授業の総括と感想文の作成																																														
成績評価方法	平常点による評価																																															
講義中に直接使用する教科書																																																
上 記 教 科 書 以 外 の 参 考 図 書																																																
その他(HP 等)	登壇する SC 研究会、同好会の一部は RSSC 同窓会ホームページで紹介しているので参照されたい。																																															

科目コード	0G244	科目名	NPO法人の理論と事例研究	科目群	第2群
担当者	森 卓也（モリ タクヤ）				
開講日程・時限	春学期・月曜日・5時限		授業方式	対面	単位数 2単位
備考					
授業の目標	アクティブシニアが様々な社会貢献活動を行う際の「器」としてNPO（Non Profit Organization）法人の基礎知識を学ぶとともに、具体的なNPOを事例研究することでアクティブシニアライフの実現手段としての可能性を検討します。				
授業の内容	RSSC受講者のNPOへの関心度合は様々だと思いますが、本授業はRSSCにおけるNPO入門科目としてNPO自体への興味・関心を促すことを意図しています。実務の詳細ではなくNPO法人制度ができた背景や、NPO活動で中核となる市民とのコミュニケーションや財源・収益構造等の基礎を紹介します。また実践者との対話や受講生間でのグループワークなど双方向型授業を通じて受講生間でのコミュニケーション促進も行います。				
授業計画	第1回 4/15 イントロダクション 第2回 4/22 NPO法人とは何か - NPOの過去・現在・未来 第3回 5/13 NPOの財源と収益構造 - ソーシャルビジネスの資金調達 第4回 5/20 NPOのマーケティング - 行動を促すコミュニケーション 第5回 5/27 NPOの説明責任と情報公開 第6回 6/3 「NPO事例分析」個人ワーク発表会① 第7回 6/10 「NPO事例分析」個人ワーク発表会② 第8回 6/17 NPO実践者との対話① 第9回 6/24 NPO実践者との対話② 第10回 7/1 「NPOの企画書」グループワーク 第11回 7/8 「NPOの企画書」グループワーク成果の発表 * ゲスト講師の予定等により授業計画が変更となる場合があります				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	なし（講義の都度レジュメ等を配布します）。				
上記教科書以外の参考図書	公益財団法人パブリックリソース財団編、2022、『NPO実践マネジメント入門【第3版】』、東信堂、3,080円（税込）。				
その他（HP等）	日本政策金融公庫『ソーシャルビジネスの資金調達入門』 < https://www.jfc.go.jp/n/finance/social/pdf/socialjirei_170303a.pdf >				

科目コード	OG100	科目名	セカンドステージの市民生活とNPO活動	科目群	第2群
担当者	渡辺 豊博（ワタナベ トヨヒロ）				
開講日程・時限	秋学期・火曜日・3時限		授業方式	オンライン	単位数 2単位
備考					
授業の目標	「過去の人生経験で蓄積してきた専門的な知識や経験を地域社会で活かしたい、新たな人的交流の場に参加したい」などさらなる発展的な市民生活を過ごすためのヒントや仲間づくり、社会貢献の場づくりを再発見することを目標とする。				
授業の内容	本講座では、セカンドステージにおける社会的な役割や新たな市民生活のあり方、生きがいややりがいのある場づくりなどを再発見するための多種多様な社会参加のケーススタディに関わる情報提供や事例紹介を行うとともに、日常的な市民生活の中で役立つ市民活動の方法、心構え、NPOの基礎知識、具体的な活動現場で課題解決するための実践的なノウハウ、英国や米国での先進的なNPOの活動手法、グラウンドワーク三島の現場学、地域ビジネス創業の方法などについて学ぶ。				
授業計画	第1回 9/24 講義のガイダンス、自己紹介、学びたいポイントの確認 第2回 10/1 行政の限界・破綻を考える 第3回 10/8 市民活動の現状と課題、可能性を考える 第4回 10/15 国策に挑んだ南方熊楠の挑戦と戦略とは 第5回 10/22 富士山を救え・NPOパワーの実力と可能性を考える 第6回 10/29 NPOって何を学ぶ 第7回 11/12 多様なNPOの実践事例を学ぶ(環境・地域づくり・交流) 第8回 11/19 東日本大震災でのNPOの役割と課題を学ぶ 第9回 11/26 グラウンドワーク三島の実践的なノウハウと極意を学ぶ 第10回 12/3 グラウンドワーク三島の活動事例を学ぶ(水辺再生)① 第11回 12/10 グラウンドワーク三島の活動事例を学ぶ(森づくり)② 第12回 12/17 英国グラウンドワークのパートナーシップの手法を学ぶ 第13回 1/14 中高年が中心となった市民活動やビジネスなどの事例紹介 第14回 1/21 全体的な質疑応答と振り返り、講義のまとめ *希望者を対象としてグラウンドワーク三島での体験学習有り				
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価				
講義中に直接使用する教科書	渡辺豊博、2016、『先生、NPOって儲かりますか?』、春風社、1,389円(税別)。				
上記教科書以外の参考図書	渡辺豊博、2005、『清流の街がよみがえった』、中央法規出版株式会社、2,000円(税別)。渡辺豊博、『共助社会の戦士たち』、静岡新聞社、952円(税別)。渡辺豊博、2013、『失敗しないNPO』、春風社、1,500円(税別)。				
その他(HP等)	特定非営利活動法人 グラウンドワーク三島・ホームページ				

科目コード	OG219	科目名	ソーシャルビジネスの理論と実務	科目群	第2群
担当者	永沢 映（ナガサワ エイ）				
開講日程・時限	夏期集中8月27日、28日、29日(10:00～17:00)	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	地域や社会の課題解決を事業として実施をするソーシャルビジネスやコミュニティビジネスへの関心が高まっています。事例を学び、ノウハウを習得して実践に向けた具体的なプラン作成を進めていく。				
授業の内容	以下の内容について学び、検討をし、形を作っていく。 ① ソーシャルビジネスの考え方や必要性について学ぶ ② ソーシャルビジネスの事例研究 ③ ソーシャルビジネスのノウハウ ④ 課題の抽出から解決策の検討・意見交換 ⑤ 事業計画書の作成と実践に向けた検討				
授業計画	第1日 第1回 ソーシャルビジネスを学ぶ 第2回 ノウハウの習得1 第3回 ソーシャルビジネスの事例研究1 第4回 ソーシャルビジネスの事例研究2 第5回 ソーシャルビジネスの事例研究3 第2日 第6回 ノウハウの習得2 第7回 ソーシャルビジネスの事例研究4 第8回 地域課題・ニーズを図るための演習1 第9回 地域課題・ニーズを図るための演習2 第10回 ソーシャルビジネス事業計画書作成 第3日 第11回 ソーシャルビジネスの事例研究5 第12回 ソーシャルビジネスの事例研究6 第13回 事業計画書作成に向けたポイントの整理 第14回 実践に向けた事業計画の作成と意見交換 * 質疑応答、DVDによる事例の視聴を毎回実施				
成績評価方法	平常点による評価（出席確認）				
講義中に直接使用する教科書	資料は事前にデータで配布または投影				
上記教科書以外の参考図書					
その他（HP等）	ソーシャルビジネス（経産省） http://www.meti.go.jp/policy/local_economy/sbcb/				

科目コード	OG275	科目名	サステナブルコミュニティの思想と実践	科目群	第2群
担当者	大和田 順子（オオワダ ジュンコ）				
開講日程・時限	夏期集中 9月9日、10日、11日（10:00～17:00）		授業方式	対面	単位数 2単位
備考	履修人数制限科目（定員 30名）				
授業の目標	SDGs は世界共通の課題とその目標ですが、私たちの暮らしとも密接な関わりがあります。本講座では、SDGs の視点から私たちの暮らし、都市部と農山村コミュニティとの関係・支え合い、サステナブルな社会の実現について考えます。				
授業の内容	私たちが暮らす首都圏は食料やエネルギーの自給率が大変低く持続可能とはいえない状況で、農山漁村や世界に支えられています。一方、農山村の多くが過疎・高齢化し、持続可能性が危ぶまれています。本講座では SDGs の自然資本関連の目標に注目し、有機農業や生物多様性、関係人口、農泊等の取組に着目します。また、フィールドワークを通じ、都市農村協働による新たな価値創出（ソーシャル・イノベーション）や、サステナブルな暮らし・地域・社会について考えます。				
授業計画	第1日 第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第2日 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第3日 第11回 第12回 第13回 第14回 オリエンテーション：自己紹介、SDGs、サステナビリティ 「世界農業遺産」事例1：山村（宮崎県高千穂郷地域）他 「世界農業遺産」事例2：農村（宮城県大崎地域）他 「大崎耕土 SDGs クエスト」（グループワーク） 気候変動・生物多様性・資源循環に配慮した地域づくり フィールドワーク：持続可能な地域づくり ～埼玉県小川町・有機の里～ 講話（有機の里づくり）、見学（霜里農場）、体験（有機野菜里山ランチ）、小川町まちあるき フィールドワークの振り返り 食文化と風土 関係人口 世界の課題とこれからの私たちの暮らし（グループワーク） * 状況により第2日の実施方法・内容に変更が生じる場合があります				
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価				
講義中に直接使用する教科書	適宜資料を配布します				
上記教科書以外の参考図書	大和田順子、2011、『アグリ・コミュニティビジネス』学芸出版社、1,980円（税込）。 大和田順子他、2022、『SDGs を活かした地域づくり』、晃洋書房、2,200円（税込）。 アリス・ウオーター、2022、『スローフード宣言』、海士の風、1,980円（税込）。				
その他（HP等）	http://collections.unu.edu/view/UNU:6398#viewAttachments イヴォン・ユー責任編著者、2018、『世界農業遺産への道のり』、国連大学。				

科目コード	OG245	科目名	環境保全とコミュニティ形成	科目群	第2群
担当者	永石 文明（ナガイシ フミアキ）				
開講日程・時限	秋期集中 11月1日、2日、5日(10:00～17:00)	授業方式	対面	単位数	2単位
備考	履修人数制限(定員 24 名)				
授業の目標	里山と里川というヒトが関わる二次的自然の自然再生を対象にしたフィールドワークを通して、どのような背景や課題があり、その課題解決に向けて地域の人々はどのように取り組んできたのかを探る。社会システムと生態システムを総合的に捉える考え方を身につける。				
授業の内容	最初の2日間は、「里川の自然再生とコミュニティ」（落合川/東久留米市）と「里山の自然再生とコミュニティ」（狭山丘陵/所沢市・入間市）のテーマで社会と生態の情報の洗い出し作業や現場でのヒアリングなど、質的フィールドワークを実施。最後の1日は学内での講義とワークショップでまとめる。（キーワード：自然再生、生態系、コミュニティ形成、パートナーシップ、コミュニケーション、ネットワーク形成、生態系サービス、生物多様性保全、住民参画、祭礼）。				
授業計画	第1日 第1回 落合川の自然と地域社会への実感導入（現地を知る） 第2回 里川の自然再生とコミュニティの紹介（現地ガイダンス） 第3回 現地踏査による自然資源の抽出作業（自然要素の確認） 第4回 現地踏査による社会システムの抽出作業（社会要素の確認） 第5回 里川の自然再生とコミュニティ形成の関係について討議 第2日 第6回 狭山丘陵の自然と地域社会への実感導入（現地を知る） 第7回 里山の自然再生とコミュニティの紹介（現地ガイダンス） 第8回 現地踏査による自然資源の抽出作業（自然要素の確認） 第9回 現地踏査における社会システムの抽出作業（社会要素の確認） 第10回 里山の自然再生とコミュニティ形成の関係について討議 第3日 第11回 自然環境保全の講義 第12回 里山と里川に関するフィールドワークの整理 第13回 ワークショップ（カテゴリー抽出とフレームワーク創り） 第14回 フレームワーク作成と発表（ポスター発表）				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	フィールドワーク時に当該地のパンフレットや資料等を配布				
上記教科書以外の参考図書	永石文明、2016、「多様なコモンズを活かしたフィールドミュージアムの持続可能性」『立教大学社会学部研究紀要 応用社会学研究』No. 58、199－211。				
その他（HP等）	落合川と南沢湧水群 http://www.city.higashikurume.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/000/080/2017.10_guidemap.pdf				

科目コード	0G256	科目名	社会の持続可能性と環境問題			科目群	第2群
担当者	奇二 正彦（キジ マサヒコ）						
開講日程・時限	秋学期・水曜日・4時限			授業方式	対面	単位数	2単位
備考							
授業の目標	現代社会において深刻化している環境問題に対し、歴史、倫理、科学、経済など多角的な視点で問題を見てゆく。その上で、社会の持続可能性のために私たちができることを考え、実践することを目標とする。						
授業の内容	この授業では、環境問題の全体像を把握し、社会の持続可能性について探求します。初めに、気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇などの現代の環境問題に焦点を当て、これらの問題がどのように人間活動に根ざしているかを探ります。次に、環境思想の歴史と主要な思想家の理論を概観します。また、国際的な環境政策、法律、およびガバナンスに関する知識を深め、持続可能なライフスタイルと消費者行動についても議論します。最終的には、受講生が環境問題に対する意識を高め、未来に向けた行動をとるための基盤を築きます。						
授業計画	第1回 9/25 序論とコースの紹介 第2回 10/2 環境問題の現状 第3回 10/9 自然とは 第4回 10/23 主要な環境思想家たち 第5回 10/30 主要な環境思想家たち 第6回 11/6 主要な環境思想家たち 第7回 11/13 環境保護の国際的な動きと枠組み 第8回 11/20 持続可能な経済システム 第9回 11/27 持続可能なエネルギーと資源の管理 第10回 12/4 食料安全保障と持続可能な農業 第11回 12/11 持続可能な都市開発と交通 第12回 12/18 持続可能なライフスタイルと消費者行動 第13回 1/8 環境教育とコミュニケーション 第14回 1/15 サステナビリティへの未来の展望						
成績評価方法	平常点による評価						
講義中に直接使用する教科書	特になし						
上記教科書以外の参考図書	加藤尚武著、2020、『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2,000円（税抜）。ジョイ・A・パルマー編、2004、『環境の思想家たち下』、みすず書房、2,800円（税抜）。						
その他（HP等）							

科目コード	OG234	科目名	持続可能な社会と地域づくり	科目群	第2群
担当者	阿部 治（アベ オサム）				
開講日程・時限	夏期集中 9月4日、5日、6日（10:00～17:00）		授業方式	対面	単位数 2単位
備 考					
授業の目標	人類にとって最大の課題である「持続可能な社会」や「持続可能な開発」、国連持続可能な開発目標（SDGs）への理解を深めるとともに全国各地の事例を通して持続可能な社会づくりの手法を学び、生活に生かす。				
授業の内容	今日では一般的となった「持続可能な社会」「持続可能な開発（SD）」という人類共通の目標に至るまでの流れを振り返り、これらの基本事項の整理を行い、さらに「国連持続可能な開発目標（SDGs）」を俯瞰し、SDGs を達成するための人づくりである「持続可能な開発のための教育（ESD）」の視点から、多様な主体の協働による持続可能な地域づくりの具体的事例（ゲスト講師含）を取り上げ、検討し、持続可能な社会や地域づくりについて理解を深める。				
授業計画	第1日 第1回 現代社会（地域）は持続不可能 1 第2回 同上 2 第3回 「もう一つの道」としての「持続可能な開発」 第4回 「持続可能な社会」「持続可能な開発」とは 第5回 SDGs とは 1 第2日 第6回 同上 2 第7回 「持続可能な開発のための教育（ESD）」とは何か 第8回 ESD と持続可能な地域づくり 第9回 事例 1 第10回 事例 2 第3日 第11回 事例 3 第12回 事例 4 第13回 討論：持続可能な地域・社会づくりに参加するために 第14回 総括：				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	適時プリントを配布する				
上記教科書以外の参考図書	阿部編、2017、『ESD の地域創生力』、合同出版、2,000 円（税抜）。阿部・増田編、2020、『ESD の地域創生と自然学校』、ナカニシヤ、2,000 円（税抜）。阿部・他編、『知る・わかる・伝える SDGs I』『同Ⅱ』『同Ⅲ』『同Ⅳ』、学文社、各 2,000 円（税抜）。				
その他（HP 等）	事情が許せば事例で検討した地域などでのフィールドワークを行いたいと考えています。				

科目コード	OG242	科目名	国際政治とグローバル市民社会の構想	科目群	第2群
担当者	竹中 千春（タケナカ チハル）				
開講日程・時限	秋学期・火曜日・4時限		授業方式	オンライン	単位数 2単位
備考					
授業の目標	グローバル化時代の世界は厳しい動揺に見舞われています。貧富の格差を縮小し、武力紛争を止め、すべての人々にとって持続可能な地球と人間社会をつくれるか。市民は力を発揮できるのか。一緒に考えていきましょう。				
授業の内容	世界金融危機、難民と移民の急増、気候変動、パンデミック、経済危機とエネルギー危機、ウクライナ戦争、中東紛争の再燃、核戦争の危険など衝撃的イベントが続きます。国際政治の起点は、30年戦争を終えるためにヨーロッパ中の君主が結んだ1648年のウェストファリアの和約だと言われます。このしくみは、その後370年以上、大戦争を止め戦後の平和を築くために幾度も改変され、世界大に広まりました。誰が平和を守るのか。誰がその知恵と力を持つか。市民として考えます。				
授業計画	第1回 9/24 グローバリゼーション時代の国際政治とその課題 第2回 10/1 感染症のパンデミックと国際社会 第3回 10/8 気候変動・温暖化・水資源の問題と国際社会 第4回 10/15 国家は豊かさを守るか① 第5回 10/22 国家は豊かさを守るか② 第6回 10/29 国家は平和を守るか① 第7回 11/12 国家は平和を守るか② 第8回 11/19 移民・難民・移動する人々の時代 第9回 11/26 人権侵害・マイノリティ・女性 第10回 12/3 盗賊のインド史：女盗賊プーラン・デーヴィー 第11回 12/10 暴力の連鎖をもたらすのは誰か 第12回 12/17 暴力の連鎖を解くのは誰か 第13回 1/14 ガンディー 平和を紡ぐ人 第14回 1/21 総合討論：グローバル市民社会の時代を生きる				
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価				
講義中に直接使用する教科書	藤原帰一、2020、『不安定化する世界』、朝日新聞出版、979円（税込）。竹中千春、2004、『世界はなぜ仲良くできないの？』、CCCメディアハウス、電子書籍、861円（税別）。竹中千春、2018、『ガンディー 平和を紡ぐ人』、岩波新書、820円（税別）。				
上記教科書以外の参考図書	竹中千春、2010、『盗賊のインド史 帝国・国家・無法者』、有志舎、2,808円（税込）。藤原帰一、2022、『正しい戦争は本当にあるのか』、講談社+α新書、900円（税別）。藤原帰一他編、2022、『気候変動は社会を不安定化させるか』、日本評論社、2,970円（税込）。				
その他（HP等）	他の参考文献や資料、ビデオ鑑賞などについては各回の授業でご紹介します。				

科目コード	OG236	科目名	現代社会と民法	科目群	第2群
担当者	野澤 正充（ノザワ マサミチ）				
開講日程・時限	夏期集中 8月1日、2日、5日(10:00～17:00)	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	この授業では、これまで法律と関わってこなかった受講生が、論理的に物事を考える力を養うとともに、日常生活に身近な民法をとおして、社会を見る力を養うことを目的とする。				
授業の内容	授業は、①民法の基礎的な知識を講義する部分と、②具体的な事例を基に、受講生がグループで検討する部分とから成る。そして、他のグループの発表を聴くことにより、いろいろな考え方や見方があることに気づくと共に、各自が法的な物の考え方を身に付け、意見を発表できるようにする。かつて法学部で学んだ方はもちろん、これまでの人生において全く法律と縁がなかった受講生でも、十分に理解できる内容とするつもりである（下記の授業計画は、変更することがある）。				
授業計画	第1日 第1回 法学への導入① 第2回 法学への導入② 第3回 法学への導入③ 第4回 契約上の説明義務①－日照権・眺望権 第5回 契約上の説明義務②－マンション値引き訴訟 第2日 第6回 保証契約① 第7回 保証契約② 第8回 売買契約と解除① 第9回 売買契約と解除② 第10回 不倫と不法行為 第3日 第11回 大気汚染訴訟 第12回 建設アスベストによる被害 第13回 認知症と監護－JR 東海訴訟 第14回 まとめ				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	野澤正充、2020、『契約法－セカンドステージ債権法Ⅰ〔第3版〕』、日本評論社、2,700円（税別）。 ※第4版が刊行されれば、第4版に変更する。				
上記教科書以外の参考図書	なし				
その他（HP等）	なし				

科目コード	0G243	科目名	金融論	科目群	第2群
担当者	鉢村 健（ハチムラ タケシ）				
開講日程・時限	春学期・水曜日・4時限		授業方式	対面	単位数 2単位
備考					
授業の目標	世界的な「金融（負債）の膨張」は人類社会に大きな歪みをもたらしています。授業では資本主義の根幹をなす「通貨と金融」の本質と構造を明らかにした上で問題点を探り、将来の課題を「自らの視点で捉え直す力の涵養」を目指します。				
授業の内容	講義では「カネの流れ」を多角的に追いかけて、論理的な思考訓練を繰り返します。現代社会は「グローバル化と技術革新」が進む一方、「多様化と格差拡大」を背景に嫉妬深い社会になりました。また世界はコロナと軍事紛争によって「世界の富」が少数の勢力へ集中しています。この現象は「負債の膨張」と「巨額な資金決済」なしには実現できません。多様な経験を持つ学生の皆さんに対し金融面から新たな視点を提供して、「現代社会が抱える課題の本質と将来像」をご一緒に考えます。				
授業計画	第1回 4/10 オリエンテーション講義「金融膨張と国際新秩序」 第2回 4/17 貨幣論(1)「銀行券と貨幣」—通貨の製造企画と発行管理 第3回 4/24 貨幣論(2)「現金の流通構造」—還流システムと裾野産業 第4回 5/8 貨幣論(3)「キャッシュレス」—デジタル通貨と決済システム 第5回 5/15 金融論(1)「民間金融」—民間金融機関の変遷と将来像 第6回 5/22 金融論(2)「中央銀行」—機能と業務内容、国際比較 第7回 5/29 金融論(3)「金融市場」—金融政策と財政政策 第8回 6/5 金融構造論(1)「日本経済」—経済指標で見た失われた30年 第9回 6/12 金融構造論(2)「地方経済」—疲弊する地方経済の背景 第10回 6/19 金融構造論(3)「世界経済」—景気循環と保護主義 第11回 6/26 国際金融論(1)「国際協調」—国際機関とグローバリズム 第12回 7/3 国際金融論(2)「開発援助」—途上国支援と植民地主義 第13回 7/10 国際金融論(3)「マネーロンダリング」—地下経済と地政学 第14回 7/17 総括講義				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	講義用のパワーポイントを毎回提供します(教科書の指定はありません)。				
上記教科書以外の参考図書	理解を深めたい学生用に、推薦できる専門書を適宜紹介します(購入不要です)。				
その他(HP等)					

科目コード	OG247	科目名	信託機能を活用した社会貢献・財産管理	科目群	第2群
担当者	堂園 昇平（ドウゾノ ショウヘイ）				
開講日程・時限	秋学期・月曜日・4時限		授業方式	対面	単位数 2単位
備考					
授業の目標	人生100年時代シニアが豊かなセカンドステージを送るうえでは、賢明な財産管理と適切な資産運用が重要であることから、現代的機能が注目されている信託について理論と実務・社会貢献への活用を学び、賢い人生設計に資する。				
授業の内容	中世英国において発生し時代と共に発展してきた信託の歴史・制度と公共性・社会貢献・多様な機能を理解し、公益信託や家族の財産管理に役立つ遺言代用信託・民事信託等を考察する。投資信託における信託機能と資産運用にも言及する。相続対策と信託の活用にも実務的に取り組む。受講生の目線で期待される新しい信託を考える。外部講師の高度な専門性に基づく理論と実務、平易かつ興味深い講義を展開し、グループ討議を取り入れる等、双方向コミュニケーションを図る。				
授業計画	第1回 9/30 講座の目的、信託機能と信託商品 第2回 10/7 シニアに役立つ信託商品の理解 第3回 10/21 信託の過去・現在・未来～ジャーナリストが見た信託の変化 第4回 10/28 SDGs・ESG・CSR～サステナブル金融について 第5回 11/11 資産運用と企業のESGへの取り組み 第6回 11/18 信託業務機能と投資信託における役割～シニアの賢い資産運用 第7回 11/25 金融老年学について、公益信託について 第8回 12/2 注目を浴びる成年後見制度と民事信託の理解と留意点 第9回 12/9 相続対策と信託の活用～信託の利用で何ができるか？ 第10回 12/16 不動産から考える相続、生前贈与・教育資金贈与と信託 第11回 12/23 効果的な遺言の残し方、遺言書を作ってみよう！ 第12回 1/20 総括（信託を作ってみよう）と感想文作成 * コーディネーターや外部講師がそれぞれの専門分野を分担して講義を進めます。講師の都合による変更もあり得ます。				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書					
その他（HP等）					

科目コード	OG253	科目名	シニアのための経営学	科目群	第2群
担当者	佐々木 宏（ササキ ヒロシ）				
開講日程・時限	春学期・火曜日・4時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	経営学は実践の学問といわれます。基礎講義に加え、グループワークやパソコン実習などを取り入れながら、身近な問題やテーマを題材に組織や人の問題について考えます。プロジェクト演習として、チームでの協働作業も予定しています。				
授業の内容	経営学には経営戦略など「組織」を研究する側面と、働く人やチームなど「人」を研究する側面の2つがあります。そこには、長期にわたって研究されてきたテーマと、サステナビリティ対応やAIの適用など新しいトピックが混在しています。授業では、日常生活に活用できる経営学の考え方や経営学の名著に触れつつ、MBAコースで活用される分析手法の試行、簡単なPC実習(AI関連など)、グループでのプロジェクト演習など、理論面と実践面をバランスよく展開していきます。				
授業計画	第1回 4/16 社会科学と経営学(イントロダクション) 第2回 4/23 経営戦略の考え方を学ぼうⅠ 第3回 4/30 経営戦略の考え方を学ぼうⅡ 第4回 5/7 組織と人材について考えようⅠ 第5回 5/14 組織と人材について考えようⅡ 第6回 5/21 社会とイノベーション(新しいトピックス)Ⅰ 第7回 5/28 社会とイノベーション(新しいトピックス)Ⅱ 第8回 6/4 中間レビュー 第9回 6/11 経営学を創った人々(原著に触れよう)Ⅰ 第10回 6/18 経営学を創った人々(原著に触れよう)Ⅱ 第11回 6/25 プロジェクト演習(グループワーク)Ⅰ 第12回 7/2 プロジェクト演習(グループワーク)Ⅱ 第13回 7/9 プロジェクト演習(グループワーク)Ⅲ 第14回 7/16 プロジェクト報告会(グループごとの報告)、最終レビュー * 受講者の状況をみながら、フレキシブルに変更していく可能性あり。				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	固定の教科書は使いません。				
上記教科書以外の参考図書	適宜、授業内でリファレンスします。				
その他(HP等)					

科目コード	0G300	科目名	社会老年学	科目群	第3群
担当者	安藤 孝敏（アンドウ タカトシ）				
開講日程・時限	春学期・金曜日・4時限	授業方式	オンライン	単位数	2単位
備考					
授業の目標	高齢社会とはいかなる社会であるのかを理解し、これからの自分自身の生き方と関連させて、近未来の高齢社会のあり方を考察できるよう、社会老年学の基礎的な知識と考え方を修得することがこの授業の目標である。				
授業の内容	この授業では、人口の高齢化、高齢期の健康、定年退職、高齢期の社会関係などのテーマを取り上げ、高齢社会の特徴について検討する。そして、社会と個人の高齢化を踏まえて、これからの高齢期のライフスタイルについて考えていく。授業は講義資料、映像資料、関連 Web サイトなどを用いて講義を行い、受講者には講義や資料などに関するコメント・感想などのリアクションペーパーの提出を求める。オンライン授業の特性を活かして、意見交換する反転授業も行う。				
授業計画	第1回 4/12 オリエンテーション&イントロダクション 第2回 4/19 高齢社会を科学する：社会老年学とは？ 第3回 4/26 高齢者観：高齢期をみる目 第4回 5/10 人口の高齢化：高齢化社会の実態 第5回 5/17 人口高齢化のメカニズム：少子化と長寿化 第6回 5/24 高齢社会の現状1：映像視聴 第7回 5/31 高齢期の健康：生活機能 第8回 6/7 高齢社会の現状2：映像視聴 第9回 6/14 定年退職、就業意欲と職業観 第10回 6/21 高齢社会の現状3：映像視聴 第11回 6/28 高齢期の社会関係 第12回 7/5 多様化する高齢期のライフスタイル 第13回 7/12 「高齢社会対策大綱」にみる高齢社会のデザイン 第14回 7/19 まとめ * ゲストスピーカー招聘により、計画変更の可能性あり				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	特に指定しません。 授業毎に講義資料（パワーポイント）などを配信します。				
上記教科書以外の参考図書	必要に応じて、授業中に適宜紹介する。				
その他（HP等）	総務省統計局 https://www.stat.go.jp/ 内閣府共生社会政策・高齢社会対策 https://www8.cao.go.jp/kourei/index.html				

科目コード	0G330	科目名	最後まで自分らしく	科目群	第3群
担当者	小谷 みどり (コタニ ミドリ)				
開講日程・時限	春学期・金曜日・3時限		授業方式	オンライン	単位数 2単位
備考					
授業の目標	生ある者（物）の宿命である「死」を医学、民俗学、哲学、社会学、経済学など多角的に俯瞰することで、「残された時間をどう生きるか」を改めて考えるきっかけとしていただきたい。				
授業の内容	オムニバス形式で毎回異なるテーマを取り上げ、授業を進める。死の概念、終末医療、葬送など、死の現状と問題について横断的に学習する。正解がないテーマゆえ、さまざまな考え方があることを知ったうえで、自分はどうしたいかを考えていただける工夫をしたい。				
授業計画	第1回 4/12 多死社会・死を取り巻く社会の状況 第2回 4/19 死とは何か（死の基準） 第3回 4/26 死にまつわるタブーや因習の成立 第4回 5/10 現代人の死生観 第5回 5/17 自身の死生観を考える 第6回 5/24 安楽死と尊厳死 第7回 5/31 最後まで生きるとは 第8回 6/7 現代社会におけるお墓の問題 第9回 6/14 お墓のゆくえ 第10回 6/21 お葬式 宗教的、歴史的考察 第11回 6/28 お葬式 経済的、社会的考察 第12回 7/5 死者を弔うとは 第13回 7/12 弔われない死者と無縁社会 第14回 7/19 死後をどう託すか				
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価				
講義中に直接使用する教科書	なし				
上記教科書以外の参考図書	小谷の著書は複数あるので、図書館で借りて読んでください。				
その他（HP等）					

科目コード	OG317	科目名	原風景とジオラマで自分史をつくる	科目群	第3群
担当者	野中 健一（ノナカ ケンイチ）				
開講日程・時限	春学期中事前研修3回あり。 夏期集中9月4日、5日、6日（10:00～17:00）	授業方式	対面	単位数	2単位
備考	履修人数制限科目（定員10名）				
授業の目標	自分を形成してきた暮らしと環境を「原風景」の概念を用いてとらえ、それをA4サイズの鉄道模型ジオラマに構成して形づくり、時空間の主體的な再構築をおこなって、自分史を立体的・多面的に創る。				
授業の内容	1. 原風景の概念とその研究・活用について概説し、自らの原風景を思い起こして地図・絵・文章でつくる。 2. ついで、鉄道模型ジオラマによる時空間と物語の創造の可能性について概説し、自らの原風景をもとに、A4サイズの鉄道模型（Nゲージ）ジオラマ（レールは定型の市販品を用いる）で、設計・製作する。 3. できあがったジオラマの物語をつくり、自分史にくわえる。				
授業計画	事前研修 5月16日（木）19時～20時30分 第1回 はじめに 原風景とジオラマで自分史をつくるとは？ 鉄道模型を利用することの意味とその仕組み 6月13日（木）19時～20時30分 第2回 原風景を描く 7月11日（木）19時～20時30分 第3回 ジオラマを設計する 第1日 第4回 ジオラマづくり1 配置の検討 第5回 ジオラマづくり2 地形・植生1 第6回 ジオラマづくり3 地形・植生2 第7回 ジオラマづくり4 地形・植生3 第2日 第8回 ジオラマづくり5 建物・施設1 第9回 ジオラマづくり6 建物・施設2 第10回 ジオラマづくり7 建物・施設3 第11回 ジオラマづくり8 仕上げ1 第3日 第12回 ジオラマづくり9 仕上げ2 第13回 ジオラマづくり10 調整 第14回 作品発表・総合討論 * 集中講義期間中の授業終了後に模型店・ジオラマ材料店（池袋、巣鴨）の訪問を予定している（希望者のみ）。				
成績評価方法	平常点およびレポート試験（製作記と自分史の物語）の総合評価				
講義中に直接使用する教科書	授業で適宜紹介するので、希望者は購入されたい。				
上記教科書以外の参考図書	材料費（レールおよびA4ボード）3,000円程度が最低限必要。建物や情景小物などジオラマ用品、車両・コントローラは、各自で負担（適宜紹介する）。地形をつくる紙粘土、工作用具（カッターナイフ、接着剤等）は各自で用意すること。樹木・草材料などは協賛店・メーカーから提供されたものを使う。それ以外に必要なものがあれば各自で購入する。				
その他（HP等）	製作例の紹介 http://www.rikkyo.ne.jp/web/nonaka/nonakaresearch/nonakatetsu.htm				

科目コード	OG144	科目名	生きがいの生涯発達心理学	科目群	第3群
担当者	大野 久（オオノ ヒサシ）				
開講日程・時限	秋学期・火曜日・2時限	授業方式	オンライン	単位数	2単位
備考					
授業の目標	E. H. エリクソンの漸成発達理論、生涯発達論を基礎に、自らの育ち、人生、生き方、生きる意味、生きがいについて考える。さらに、家族、友人らとの人間関係のあり方を問い直す。				
授業の内容	S. フロイトは、人生で大切なこととして「愛することと働くこと（職業という閉じた意味ではなく、人生でなすべきことという意味で）」をあげた。この講義では、心理学における生涯発達論を通して、この2つの問題についての様々な考え方を紹介する。受講生が自らの人生の振り返り、これからの生き方について再考する機会としたい。取り上げるテーマは、アイデンティティ、愛すること、次世代を育てること、生きる意味、生きがいなどである。				
授業計画	第1回 9/24 生涯発達から生きがいを考える 第2回 10/1 生涯発達とアイデンティティ論 第3回 10/8 アイデンティティのバリエーション 第4回 10/15 信頼感：人格の基礎 第5回 10/22 信頼感を育む愛 愛とは何か 第6回 10/29 愛のバリエーション 第7回 11/12 自律性：意志の強さ弱さの意味 第8回 11/19 主導性：個性を伸ばす 第9回 11/26 アイデンティティと親密性：本当に人と仲良くなること 第10回 12/3 世代継承性：アイデンティティの実践と生きた証 第11回 12/10 統合性：人生の総まとめ 第12回 12/17 死後、人はどうなるかの思想 第13回 1/14 死生観の思想から見た生きがい 第14回 1/21 まとめ				
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価				
講義中に直接使用する教科書	なし				
上記教科書以外の参考図書	大野久、2010、『エピソードでつかむ青年心理学』、ミネルヴァ書房、2,860円（税込）。大野久・三好昭子・茂垣まどか・赤木真弓、2023、『アイデンティティ研究のための伝記分析—生涯発達の質的心理学』、福村出版、8,800円（税込）。				
その他（HP等）					

科目コード	0G238	科目名	アドラー心理学を実践に活かす	科目群	第3群
担当者	箕口 雅博（ミグチ マサヒロ）				
開講日程・時限	秋学期・金曜日・5時限		授業方式	対面	単位数 2単位
備考					
授業の目標	本講義では、アドラー心理学の中核概念である“勇気づけ”と“共同体感覚の育成”をキーワードとして、自己啓発のみならず、対人支援場面や日常生活における実践に、アドラー心理学をどう活かせるかをともに学ぶことを目的とする。				
授業の内容	アドラー心理学は、オーストリアの精神科医アルフレッド・アドラーが創始した、人間理解と援助のための心理学である。その実践思想と理論は、個人の主体性を重んじていること、原因にこだわらず未来について考えて行く解決志向であること、人と人とのつながりを大切にしていることなどの特徴から、対人支援場面や日常生活における実践に幅広く役立つものと考えられる。本講義では、アドラー心理学の思想・理論を多様な実践に活かす方法を体験的に追究していきたい。				
授業計画	第1回 9/20 オリエンテーション 第2回 9/27 アドラー心理学誕生の背景～アドラーの生涯と思想 第3回 10/4 アドラー心理学の現在～多様な実践心理学領域への影響 第4回 10/11 アドラー心理学を理解するための基礎理論(1)目的・全体論 第5回 10/18 アドラー心理学を理解するための基礎理論(2)認知論・主体論 第6回 10/25 アドラー心理学を理解するための基礎理論(3)人間関係論 第7回 11/8 アドラー心理学の実践思想(1)共同体感覚とその育成 第8回 11/22 アドラー心理学の実践思想(2)勇気づけとエピソード事例分析 第9回 11/29 アドラー心理学の実践思想(3)支援力を高める～ピアサポート 第10回 12/6 アドラー心理学を実践に活かす(1)グリーフワーク(ゲスト講師) 第11回 12/13 アドラー心理学を実践に活かす(2) 勇気づけのワーク 第12回 12/20 アドラー心理学を実践に活かす(3) 対話実践のワーク 第13回 1/10 アドラー心理学を実践に活かす(4)コミュニティ支援との統合 第14回 1/17 アドラー心理学を実践に活かす(5)まとめと展望				
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価				
講義中に直接使用する教科書	レジュメ資料を用いる。				
上記教科書以外の参考図書	岸見一郎、2014、『アドラー心理学実践入門』、ワニ文庫、660円（税込）。岩井俊憲、2011、『勇気づけの心理学』、金子書房、1,980円（税込）。八巻秀、2018、『定年後の人生を変えるアドラー心理学』、講談社、1,400円（税別）。など（その他は随時紹介）				
その他（HP等）	パワーポイント・ビデオ教材などを用い、グループによる討議・発表、ロールプレイ、ゲストによる講義を取り入れた多面的な授業を展開していく予定である。				

科目コード	0G319	科目名	童謡を通して社会を見る	科目群	第3群
担当者	井手口 彰典（イデグチ アキノリ）				
開講日程・時限	夏期集中 8月22日、23日、26日(10:00～17:00)	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	社会における常識は決して不変・普遍ではなく、時代や地域が変われば大きく様変わりします。この授業では、音楽（特に童謡）に注目することを通じて、そうした社会常識の変化を確認し、現代を「相対化」することを試みます。				
授業の内容	今日、「日本人の心のふるさと」などと形容されることの多い童謡・唱歌。しかしそのイメージは、常に今と同じだったわけではありません。気を博した児童歌手や「歌のおばさん」、アニメソングに CM ソング、そして新しい音響メディア。めまぐるしく変わる社会のなかで、童謡はどう歌われ消費されてきたのか。その推移を眺めれば、今を生きる私たちの「常識」の脆さが見えてきます。懐かしい童謡・唱歌の裏側に垣間見える「社会」を、一緒に読み解いていきましょう。				
授業計画	第1日 第1回 社会を「相対化」する目 第2回 唱歌と童謡の誕生 第3回 大正時代の童謡の特性 第4回 レコードとラジオの普及 第5回 児童童謡歌手の隆盛 第2日 第6回 「歌のおばさん」の登場 第7回 転身・潜在化する児童童謡歌手 第8回 転換点としての 1968 年 第9回 錯綜する童謡イメージ 第10回 「ちびっこのどじまん」は何を変えたのか 第3日 第11回 キメラとしてのちびっこソング 第12回 具象化される「ふるさと」 第13回 ふるさとのインデックス 第14回 社会の中の童謡				
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書	井手口彰典、2018、『童謡の百年：なぜ「心のふるさと」になったのか』、筑摩書房、1,760 円（税込）。				
その他（HP 等）	参考図書の購入は任意ですが、手元にあればより理解が深まるはずです。				

科目コード	0G318	科目名	会計・税務の初歩から実践まで		科目群	第3群
担当者	坂本 雅士（サカモト マサシ）					
開講日程・時限	春学期・金曜日・2時限		授業方式	オンライン	単位数	2単位
備 考						
授業の目標	会計・税務の最先端の話題をわかりやすく紹介します。また、株式の模擬売買を通じて、株価変動の背景になっている経済・社会の動きに目を向け、知的好奇心を喚起させます。					
授業の内容	会計・税務の世界は不思議な玉手箱。儲かっているのにほとんど税金を払っていない大企業、ルールがいくつもある企業会計（普通、ルールは1つですね）。授業では、今、世界で起きているさまざまな出来事を紹介します。また、株式投資初心者を対象に、株式の仮想売買を通じて実経済（現実の社会、経済、会社のしくみ）を学びます。「今から始めて自分でも出来るの?」、大丈夫です！一緒に一歩踏み出してみましょう。					
授業計画	第1回	4/12	ガイダンス、税金の基礎から実践まで①、株式投資チーム分け			
	第2回	4/19	税金の基礎から実践まで②、グループワーク（以後毎回）			
	第3回	4/26	税金の基礎から実践まで③、株式投資を始める前に			
	第4回	5/10	税金の基礎から実践まで④、まずは株を買ってみよう！			
	第5回	5/17	税金の基礎から実践まで⑤、テクニカル分析の初歩①			
	第6回	5/24	税金の基礎から実践まで⑥、テクニカル分析の初歩②			
	第7回	5/31	税金の基礎から実践まで⑦、テクニカル分析の初歩③			
	第8回	6/7	税金の基礎から実践まで⑧、ファンダメンタル分析の初歩①			
	第9回	6/14	中間報告会			
	第10回	6/21	税金の基礎から実践まで⑨、ファンダメンタル分析の初歩②			
	第11回	6/28	税金の基礎から実践まで⑩、有価証券に関する税金			
	第12回	7/5	外部講師（証券取引所金融リテラシーサポート部）講演会			
	第13回	7/12	最終報告会①			
	第14回	7/19	最終報告会②			
成績評価方法	平常点による評価					
講義中に直接使用する教科書	坂本雅子、2024、『経済学講義ノート ～株式投資編～』三恵社、770円（税別）。					
----- 上記教科書以外の参考図書						
その他（HP等）						

科目コード	0G316	科目名	アートに基づいた学習活動のデザイン	科目群	第3群
担当者	石黒 広昭 (イシグロ ヒロアキ)				
開講日程・時限	夏期集中 8月1日、2日、5日 (10:00~17:00)	授業方式	対面	単位数	2単位
備考	履修人数制限 (定員 10名)				
授業の目標	国際移動、貧困、社会不参加、障がいなど、周辺に追いやられる人々に関わる社会課題に焦点をあて、アートに基づいた 学習活動の デザインについて学ぶ。				
授業の内容	社会経験豊かな人々が社会課題に関わる学習活動を組織するとき、ワークショップ・デザインやファシリテートをする時に求められることはなんだろうか。この授業では 子どもを含む市民のための、アートに基づいた ワークショップ・デザインを協働的に探求する。基本的な内容について議論した後、授業内でアートに基づいたワークショップ体験を行う。これらを参考に、最後は履修者が自ら関心を持つ社会課題についてワークショップ・デザインを作成する。				
授業計画	第1日 第1回 イントロダクション 第2回 社会課題とアート：なぜ？ 第3回 社会課題とアート：いつ？ 第4回 社会課題とアート：どこで？ 第5回 社会課題とアート：どのように？ 第2日 第6回 アートに基づいたワークショップ体験 (1)：え？ 第7回 アートに基づいたワークショップ体験 (2)：ああ！ 第8回 アートに基づいたワークショップ体験 (3)：あれー？ 第9回 アートに基づいたワークショップ体験 (4)：ふーん！ 第10回 社会課題のためのワークショップ・デザイン 第3日 第11回 履修者のデザイン報告と議論 (1) 第12回 履修者のデザイン報告と議論 (2) 第13回 履修者のデザイン報告と議論 (3) 第14回 総括 * 全体の構成は履修者の状況によって変更されることがある。				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	なし				
上記教科書以外の参考図書	Komatsu, K., Takagi, K., Ishiguro, H. and Okada, T. (Eds.), 2022, Arts-Based Method in Education Research in Japan. Leiden, Boston: Brill Sense €50. 石黒広昭、2018、『街に出る劇場：社会的包摂活動としての演劇と教育』、新曜社、2,640円 (税込)。 石黒広昭、2016、『子どもたちは教室で何を学ぶのか』、東京大学出版会、3,740円 (税込)。				
その他 (HP 等)	履修者には最終日にワークショップ・デザインの報告が求められる。 http://www.rikkyo.ne.jp/~ishiguro/				

科目コード	OG315	科目名	セカンドステージの住まいづくり	科目群	第3群
担当者	甲斐 徹郎（カイ テツロウ）				
開講日程・時限	夏期集中 8月22日、23日、26日（10:00～17:00）		授業方式	対面	単位数 2単位
備考					
授業の目標	自身の「しあわせ」と「健康」とを目的として、自分の住まいを点検し、自己評価できる力を身につけ、その改善計画を立案することを目標とする。				
授業の内容	我々にとっての「しあわせ」と「健康」には暮らしの拠点である住まいのカタチが大きく影響している。たとえば、クーラーに頼らない「涼しさ」や、深部体温を下げない「暖かさ」といった住まいの熱環境は快適性を高め、同時に健康寿命に大きく作用する。また、身近なコミュニティとの関係があり孤立しないことは、「しあわせ」の本質であり、「健康」への影響も指摘されている。この授業では、人生の拠点としての住まいのあり方を考え、その改善の仕方を学ぶ。				
授業計画	第1日 第1回 住まいと健康 第2回 クーラーなしでクーラーより快適な住まいの作り方(1) 第3回 クーラーなしでクーラーより快適な住まいの作り方(2) 第4回 健康に大きく影響する冬暖かい住まいの作り方 第5回 孤立しない住まいの作り方 第2日 第6回 「しあわせ」の本質を考える 第7回 住まいのカタチとコミュニティの関係 第8回 自分にとってのコミュニティの意味を考える 第9回 コミュニティの暮らしへの活かし方(1) 第10回 コミュニティの暮らしへの活かし方(2) 第3日 第11回 コミュニティが形成されるメカニズム 第12回 人生の拠点として自分の住まいをデザインする演習1 第13回 人生の拠点として自分の住まいをデザインする演習2 第14回 受講生による企画発表				
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書	甲斐徹郎、2018、『人生を変える住まいと健康のリノベーション』、新建新聞社、1,900円（税別）。甲斐徹郎、2016、『不動産の価値はコミュニティで決まる』、学芸出版社、1,900円（税別）。				
その他（HP等）	http://www.teamnet.co.jp/wp/?cat=39 http://www.teamnet.co.jp/wp/?cat=38				

科目コード	OG350	科目名	現在（いま）を生きるための健生学	科目群	第3群
担当者	堀 エリカ（ホリ エリカ）				
開講日程・時限	夏期集中 8月30日、9月2日、3日（10:00～17:00）		授業方式	対面	単位数 2単位
備考					
授業の目標	人生100年時代と言っても過言ではない現代社会の大きなライフテーマである「最期の瞬間を迎えるまで如何に健やかに生きるか」について、広義な意味における「健康」や「医療」の視点から学ぶ時間を持ち、思索を深める。				
授業の内容	私たちが健やかな人生を送るために、日々の生活の中で向かい合うべき様々な課題の中から、本授業においては次の3つに焦点を当て考察を行う。 ① 心身状態の把握と調整 ② 医療への理解と主体的な受け方 ③ 人生の最終章である「死」についての理解				
授業計画	第1日 第1回 イン트로ダクション & ヘルスリテラシー（情報真偽の見極め） 第2回 病気を知る（病因、現代的な病気） 第3回 健康づくりのためのヘルスチェック（病気予防と生活習慣） 第4回 病院の選び方とかかり方（選択の視点、セカンドオピニオン） 第5回 医療コミュニケーション（医療者と患者との間に生じるズレ） 第2日 第6回 医療の意思決定（意思決定過程、インフォームド・コンセント） 第7回 終末期の医療（在宅療養、ホスピス） 第8回 特別授業（ゲストスピーカーの予定） 第9回 生命倫理（安楽死と尊厳死） 第10回 「死」とは何か（キューブラー・ロス氏の死に逝く人との対話） 第3日 第11回 死の準備教育（遺される（た）人の心理プロセス） 第12回 死の疑似体験ワーク 第13回 特別授業（ゲストスピーカーの予定） 第14回 まとめ * 医療関連施設への見学可能性があるため、講義テーマ・内容が若干変更となる可能性あり * 講義回の入替え、ゲストスピーカー一回の日時変更の可能性あり				
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価				
講義中に直接使用する教科書	資料を適時配布				
上記教科書以外の参考図書					
その他（HP等）					

科目コード	OG138	科目名	食と健康の教養学	科目群	第3群
担当者	松山 伸一（マツヤマ シンイチ）				
開講日程・時限	春学期・月曜日・4時限		授業方式	対面	単位数 2単位
備考					
授業の目標	すべての人にすんなりとあてはまる食事や健康法はない。食と健康の基礎になる栄養科学の学習を通して、一人ひとりが体質、生活習慣、環境、嗜好などを把握し、「一生を共にする自分の体のいたわり方」を教養として身につける。				
授業の内容	今、栄養科学は集団対応型から個人対応型に移行しつつあるが、まだ確立されていない。人間が本来持っている健康を維持向上させる力を最大限に引き出すためには、ひとり一人が個体差を認識し、栄養、運動、睡眠、ストレス対応、社会とのかかわりなどにおいて何をどうすべきかを自分でデザインすることが大切である。そのために必要な知識、ものの見方、考え方、取り組み方、行動変容法などを科学的に学ぶ。科学の予備知識がなくても理解できる内容である。				
授業計画	第1回 4/15 栄養科学の基礎 ―食と健康の常識 ウソ・ホント― 第2回 4/22 家庭の栄養科学 ―自分と家族とペットの食と健康の秘訣― 第3回 5/13 血液検査データは宝の山 ―自分の体を深読みする技法― 第4回 5/20 愚痴も言わずに働き続ける沈黙の臓器に感謝しよう 第5回 5/27 ヒトと共生している細菌は何をしているのか 第6回 6/3 筋肉は命の源 ―筋肉なくして健康長寿なし― 第7回 6/10 ダイエットの科学 ―健康的な減量と命を削る減量の差― 第8回 6/17 RSSC 受講生なら誰でも気になる〇〇の話 第9回 6/24 なぜ、体と心を休ませることが大切なのか 第10回 7/1 百寿者に学ぶ健康長寿を楽しむ年齢の重ね方 第11回 7/8 なぜ、健康に良い習慣は長続きしないのか				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	なし。毎回、授業資料を配布する。				
上記教科書以外の参考図書	----- 單元ごとに参考図書を紹介する。				
その他（HP等）					

科目コード	OG105	科目名	健康長寿とアンチエイジング	科目群	第3群
担当者	杉浦 克己（スギウラ カツミ）				
開講日程・時限	夏期集中 8月6日、7日、8日(10:00~17:00)	授業方式	対面	単位数	2単位
備 考					
授業の目標	加齢に伴って起こるフレイル（虚弱）について基本事項をおさえた上で、健康寿命の延伸に関わる因子について学ぶ。そして、健康長寿を達成しウエルネスな人生を送るための生活習慣的アプローチを理解し、これからの人生を再度デザインする。				
授業の内容	健康寿命の延伸を図る上での危険因子（メタボ、ロコモ、認知症、薬物依存、うつ、ストレス、感染症等）と保護因子とを認識する。これらの因子に関わる、運動・栄養・休養、喫煙・アルコール等の生活習慣の基礎的知識を理解した上で、これらをどのように実行していくかについて、人生の流れ（勉強、仕事、結婚、家庭、老化、死）に沿って、環境や社会とのつながりという大きな視点と、自分自身の生き方や態度という全人的尺度とによって捉え学んでいく。				
授業計画	第1日 第1回 アンチエイジングとウエルネスな人生 第2回 メタボリックシンドロームと生活習慣病 第3回 ロコモティブシンドロームとサルコペニア、フレイル 第4回 認知症 第5回 休養・睡眠 第2日 第6回 栄養・食生活 第7回 サプリメント・健康食品 第8回 運動・スポーツ 第9回 依存（薬物、アルコール、タバコ） 第10回 うつとストレス、笑い 第3日 第11回 感染症（3大感染症、インフルエンザ、COVID-19） 第12回 環境の科学 第13回 生命倫理 レポート提出 第14回 まとめ				
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書	杉浦克己、2024、『サプリメントと日本人』、草思社、2024年3月に発刊予定。 杉浦克己、2021、『栄養学がわかる』、大修館書店、2,200円（税別）。				
その他（HP等）	https://www.youtube.com/channel/UCRBkmlF2SOFH_j5ne9lYhVw				

科目コード	OG142	科目名	セカンドステージを楽しむ詩心・気心	科目群	第3群
担当者	渡辺 信二(ワタナベ シンジ)				
開講日程・時限	秋学期・木曜日・4時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	セカンドステージを楽しむには、心身の健康が必須です。精神の健康のため、良い作品を読んで思索し議論し、常に心を清新に保つ。身体のため、様々な気功を無理ない範囲で実践する。結果、各自の心身に資する最適な健康法を見出してゆく。				
授業の内容	養生には、心・体・食の三養生がありますが、『養生訓』の一節「古人は詠歌・舞踏して血脉を養ふ。導引・按摩して気をめぐらすがごとし」とは、芸術の手習いが導引(=気功)と同じという主張です。この響みに倣い、本授業の前半は、日本語で詩を読み、グループに分かれて思索し議論します。後半は、『養生訓』を手掛かりに漢方の基礎知識を確認し、また、外丹靈動功などの気功を行なう。これにより、三養生のうちの心・体を涵養します。健康は、所与のものではなく、じぶんたちで涵養し維持するものです。				
授業計画	第1回 9/26 授業紹介。養生の話。呼吸法(1)。外丹靈動功その他(1)。 第2回 10/3 初恋の詩。呼吸法(2)。『養生訓』(1)。外丹靈動功その他(2)。 第3回 10/10 愛の詩。呼吸法(3)。『養生訓』(2)。外丹靈動功その他(3)。 第4回 10/17 檸檬の詩。『養生訓』(3)。指気功(1)。外丹靈動功その他(4)。 第5回 10/24 林檎の詩。『養生訓』(4)。指気功(2)。外丹靈動功その他(5)。 第6回 11/7 犬の詩。『養生訓』(5)。指気功(3)。外丹靈動功その他(6)。 第7回 11/14 夫婦の詩。『養生訓』(6)。指気功(4)。外丹靈動功その他(7)。 第8回 11/21 夫の詩。『養生訓』(7)。指気功(5)。外丹靈動功その他(8)。 第9回 11/28 妻の詩。『養生訓』(8)。指気功(6)。外丹靈動功その他(9)。 第10回 12/5 虎の詩。『養生訓』(9)。華佗の五禽戯(1)。外丹靈動功ほか(10)。 第11回 12/12 鹿の詩。『養生訓』(10)。五禽戯(2)。外丹靈動功ほか(11)。 第12回 12/19 熊の詩。『養生訓』(11)。五禽戯(3)。外丹靈動功その他(12)。 第13回 1/9 猿の詩。『養生訓』(12)。五禽戯(4)。外丹靈動功その他(13)。 第14回 1/16 鳥の詩。『養生訓』(13)。五禽戯(5)。外丹靈動功その他(14)。 * 順序入替や変更の可能性あり。第1回目配布のレジュメで確認のこと。				
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価				
講義中に直接使用する教科書	貝原益軒、2020、『養生訓』松田道雄訳、中公文庫、880円(税別)。 なお、WEB版『養生訓』(https://www.nakamura-u.ac.jp/institute/media/library/kaibara/text03.html)でも可。各自、受講前に用意すること。				
上記教科書以外の参考図書	亀井俊介ほか編、2007、『アメリカ名詩選』、岩波文庫、700円(税別)。 川崎洋、2011、『教科書の詩をよみかえす』、ちくま文庫、580円(税別)。				
その他(HP等)	他の文献や資料は、その都度、授業中に紹介する。				

科目コード	0G312	科目名	セカンドステージとテクノロジー	科目群	第3群
担当者	村上 祐子（ムラカミ ユウコ）				
開講日程・時限	春学期・金曜日・1時限		授業方式	オンライン	単位数 2単位
備考					
授業の目標	セカンドステージ世代の視点から先端科学技術の現状を学び、将来を展望するためにこれまでの歴史を振り返る。				
授業の内容	人工知能をはじめとする先端科学技術の現状とその社会受容にまつわる課題を概観する。そのうち、過去の先端科学技術がどのように受容され、どのような社会的な課題が発生したのか、またどのようにそれを解決してきたのかケーススタディを見ていく。このように過去と現在の状況を踏まえたうえで、過去における未来予測を現在の視点から振り返り、さらに現在から未来の予測を試みる。				
授業計画	第1回 4/12 ガイダンス 第2回 4/19 身近な人工知能技術1 第3回 4/26 身近な人工知能技術2 第4回 5/10 身近な人工知能技術3 第5回 5/17 身近な人工知能技術4 第6回 5/24 過去の先端科学技術1 第7回 5/31 過去の先端科学技術2 第8回 6/7 過去の先端科学技術3 第9回 6/14 過去の先端科学技術4 第10回 6/21 未来予測1 第11回 6/28 未来予測2 第12回 7/5 未来予測3 第13回 7/12 未来予測4 第14回 7/19 まとめ				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書					
その他（HP等）	参考資料を授業内で指示します。また平常点としてCanvas LMSで意見を定期的にうかがいます。				